



Keio Museum Commons
慶應義塾ミュージアム・コモンズ

慶應義塾ミュージアム・コモンズ年報 1号
2020/2021
Annual Report No.1 2020/2021
Keio Museum Commons

目次	4	ご挨拶
	6	慶應義塾ミュージアム・コモンズ設立趣意 ミュージアム・コモンズの目指すもの 事業概要
	14	沿革
	16	東別館の建築とKeMCoの設備
	30	KeMCoロゴとVI
	32	KeMCoデジタル×アナログ融合プロジェクト
	39	活動記録 展覧会 オンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」 プロジェクト 慶應義塾ミュージアム・コモンズ プレビュー／Commissioned by KeMCo 2020 教育 KeMCo講座「ミュージアムとコモンズ」(設置授業科目) KeMCoデジタル×アナログ・プロジェクト&サポート 2020
	62	受入作品・資料
	66	刊行物
	70	図書資料統計
	72	会議
	74	人事
	76	所員・職員名簿
	78	規程
	80	関連法規

Contents	5	Preface
	10	Aims of Establishing the Keio Museum Commons
		The Vision of Keio Museum Commons (KeMCo)
		Purpose
	15	History
	26	East Annex Architecture and KeMCo Facilities
	31	KeMCo Logo and Visual Identity
	34	KeMCo Digital × Analogue Fusion Project
	39	Activities
		Exhibition Online Exhibition “Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)”
		Project Keio Museum Commons Preview/ Commissioned by KeMCo 2020
		Education KeMCo Course “Museum and Commons”
		KeMCo Digital × Analogue Project & Support 2020
	63	New Acquisitons
	66	Publication
	70	Books Data Statistics
	73	Meetings
	75	Personnel Changes
	77	Staff
	78	Rules
	80	Regulations

ご挨拶

2020年度は慶應義塾ミュージアム・コモンズ(KeMCo)にとって、組織としての活動を本格的に開始した年でした。2021年4月に予定されている新展示施設の開館準備も大詰めをむかえ、所員は皆、日々忙しく過ごした1年だったといえます。

9月には三田キャンパス東別館の建て替え工事が完了し、10月には、コロナ禍による制約を受けながらも、さまざまなKeMCoのプレオープン・イベントが実施されました。なかでも「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」は、KeMCoが三田の「分散型ミュージアム」のハブとして企画、制作したオンライン展覧会ですが、好評により、当初の期間を延長して10月26日～2月28日まで開催されました。また、秋学期からKeMCo講座「ミュージアムとコモンズ」が開講され、複数の学部、研究科から熱心な学生が履修し、文化財を取り囲むデジタル・文化環境について学びました。授業の多くはKeMCo Studl/Oからのリアルタイム配信でおこなわれ、オンライン授業の先進的な試みともなりました。

12月には事務組織も東別館に移動し、1月には収蔵庫のお祓いもすませ、3月にはセンチュリー赤尾コレクションの移管が予定通り終了しました。2021年4月19日にはいよいよ展示室がオープンし、慶應義塾として初めての展示・収蔵専用施設が一般公開されることになります。KeMCo年報1号には、グランドオープンに向けての1年間の、様々な活動がまとめられています。

松田 隆美
慶應義塾ミュージアム・コモンズ 機構長
2021年4月

Preface

The 2020 academic year saw the full-scale roll out of Keio Museum Commons' (KeMCo) organizational activities. Preparations for the opening of the new exhibition facility, scheduled to take place in April 2021, are now wrapping up, and it would be safe to say that all of the institute's members have had a busy year.

Reconstruction work on the East Annex in Mita Campus was completed in September, and various KeMCo pre-opening events were held in October, despite the restrictions imposed by the coronavirus pandemic. One of these events, "Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)," was an online exhibition planned and realized by KeMCo in its capacity as the hub for a "distributed museum" at Mita, and which, due to popular demand, had its original runtime extended so as to run from October 26 to February 28. In addition, the KeMCo Course "Museum and Commons" was held from the Fall Semester, with enthusiastic students from multiple faculties and graduate schools taking the course to learn about the digital and cultural contexts surrounding cultural assets. Many of the lessons served as pioneering experiments in online teaching, being delivered in real time from the KeMCo Stud I/O.

In December, the administrative office of KeMCo moved to the East Annex; in January, a traditional Shinto purification ritual was conducted in the storage facility; while in March, the transfer of the Century Akao Collection was completed as scheduled. The exhibition room will finally open its doors on April 19, 2021, when it will become the first dedicated facility for exhibition and storage at Keio University for the general public. The first annual report of KeMCo, which summarizes its various activities over the year, has been compiled in anticipation of the grand opening.

Takami Matsuda
Director, Keio Museum Commons
April 2021

慶應義塾ミュージアム・コモンズ設立趣意

松田 隆美

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 機構長

／文学部教授

慶應義塾は、160年を越える歴史のなかで、多くの文化財や芸術作品を購入や寄贈により所蔵しています。それらは絵画、彫刻、考古資料、古文書など多岐にわたっており、種別に応じて、美術品管理運用委員会、メディアセンター、アート・センター、文学部民族学考古学専攻、美学美術史学専攻、古文書室、福澤研究センター、斯道文庫などが保存、管理しています。その一部は、塾監局や社中交歓萬來舎などに展示されていますし、また、企画展のかたちで、アート・センターのアート・スペースや慶應義塾図書館の展示室で公開されてきました。しかしこれまでは、美術品専用の本格的な展示・収蔵施設を持つことも、また一貫教育校を含む複数のキャンパスに分散している義塾の文化財を統合的にデータベース化することはありませんでした。

慶應義塾は2009年に、一般財団法人センチュリー文化財団から、日本の書跡・絵画資料を中心とした1,740件の学術資料の寄託とその活用のための寄付を受け、定期的に展覧会や研究活動を実施してきました。さらに2017年には、同財団より、既存の寄託品に新たに585件を加えた計2,325件からなる「センチュリー赤尾コレクション」の寄贈を、それらを収蔵し展示する施設を新たに建設するための資金とともに受け入れるという合意が成立しました。

慶應義塾の歴史のなかで、義塾の文化財をそれにふさわしい環境で収蔵し、常設展示するミュージアムを三田キャンパスに建設するという案は何度か浮上してきましたが、諸般の事情で実現には至りませんでした。しかし、センチュリー文化財団からの寄付のお陰で、学術資料の収蔵と展示に特化した施設の建設が現実のものとなりました。

2017年にはワーキング・グループが組織されて、新施設と組織のあり方の検討が始まりました。全国の主要大学の多くがすでに何らかの形で大学ミュージアムを持っており、後発の慶應義塾としては、面積は狭いながらも画期的なコンセプトに基づいたミュージアムを構想する必要がありました。検討の結果、「ミュージアム・コモンズ」という世界的にも類のない斬新なアイデアが誕生し、このコンセプトを軸に具体案を作成し、2019年4月に慶應義塾ミュージアム・コモンズ(通称 KeMCo)が設立されました。KeMCoの活動拠点は、義塾初の展示・収蔵専用の施設として桜田通り沿いに建設された東別館です。2020年9月に竣工し、2021年4月にKeMCoはグランドオープンを迎えます。

KeMCoの役割は、センチュリー赤尾コレクションをはじめとする義塾所蔵の文化財を収蔵、管理、展示することにとどまりません。三田キャンパスでは、すでにアート・センターのアート・スペース、慶應義塾図書館内の展示室が美術資料や貴重書の展示スペースとして機能しており、図書館旧館内には福澤諭吉記念慶應義塾史展示館が2021年春に開館します。また、重要文化財の図書館旧館や三田演説館、旧ノグチ・ルームに代表される貴重な建築も少なからず存在しています。三田キャンパスは全体として、ひとつの「分散型ミュージアム」の性格を有していると言えます。KeMCoはそのハブとして文化財情報を相互に接続し、展示・教育活動の支援をする機構として活動します。

また慶應義塾は、1996年の「ゲーテンベルク聖書」購入を契機として、文化財のための先進的なデジタル環境の構築に積極的に取り組んできました。KeMCoは、ミュージアムとして先駆的なファブリケーション施設(KeMCo Studio)を館内に併設し、デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター、理工学部、メディア・デザイン研究科などと協力しつつ、アートの力を引き出すデジタル環境の拡張を目指します。

大学における「コモン・ルーム」の伝統を受け継ぐKeMCoは、教育、研究、地域・国際連携のための創造的空き地であり、文化財を核とした教育、研究、国際的コミュニティ活動を通じて「人間交際」を実現する新たな空間なのです。

ミュージアム・コモンズの目指すもの

交流を生み出す「コモンズ」

学生・研究者・卒業生など大学に関わる多様なコミュニティが、文化財や学術資料などのさまざまなオブジェクトを基点として交流し、新たな発見や発想を生み出す場として機能します。

オブジェクト・ベースの研究と教育

オブジェクトの交差点として、オブジェクトから出発し、幅広い領域をつなぐ研究を展開します。大学全体をオープン・ミュージアムとして活用し、ミュージアム専門家の育成のみならず、大学や一貫教育校の生徒、社会人を対象とした教育活動を展開し、多様な学習者に積極的に働きかけます。

アートとカルチャーのグローバル・ハブ

慶應義塾における展示・収蔵活動や、オブジェクトを対象とした教育・研究活動を繋ぐハブとして機能します。さらに、活動の成果を国際的な文脈に接続し、国際交流を推進します。

デジタルとアナログが融合するミュージアム・モデル

研究・教育と密接に関わる、総合学塾のミュージアムとしての強みをいかし、デジタルとアナログが融合した現代社会に対応する、ミュージアムのあらたな活動モデルを提案します。

事業概要

展覧会および関連プログラムの企画・開催

アナログとデジタルが融け合う環境を構築し、さまざまな領域における活動と共同しながら、研究・教育の現在を反映する展覧会を企画、開催します。また、コンファレンスやワークショップなどの関連プログラムを展開します。

コレクションの管理および調査・研究

ミュージアム・コモンズが所管する文化財の調査・研究を進めるとともに、適切な保存・修復措置を講じます。また、学内の委員会や諸部門と協力し、慶應義塾が所蔵する文化財について、情報の収集および調査を行います。

デジタル・ファブリケーション・ラボの整備・運営

文化財のデジタル化と、デジタルデータを用いたファブリケーションを可能にするラボ「KeMCo StudI/O」を整備・運用することによって、デジタルとアナログの関係性を体験を通じて学び、メディア横断的な創造を展開する機会を提供します。

出版広報活動

事業報告を中心とした年報のほか、研究紀要や叢書を刊行します。また、展覧会等のプログラム開催にあわせてカタログや資料集を発行します。

慶應義塾における文化財関連活動の支援

分散型ミュージアムのハブとして、慶應義塾における文化財関連活動を支援します。展覧会や教育におけるコレクションの活用など、さまざまな企画への助言などを行うほか、文化財関連活動をサポートするツールやコンテンツの開発につとめます。

慶應義塾の文化財関連情報の整備および公開

慶應義塾の文化コレクションや、コレクションを巡る展覧会等の活動を一望することができる情報プラットフォームを整備し、運営します。さらに、このプラットフォームを国内外のデータベースに接続し、慶應義塾の文化財関連情報をグローバルでオープンなネットワークの中に位置づけます。また、文化財情報の整備のために必要な調査および、文化財を所管するステークホルダーへの支援を行います。

ユニバーシティ・ミュージアム・ネットワークの構築

コンファレンスや共同ワークショップなどのプログラムを通じて、国内外のユニバーシティ・ミュージアムと交流し、ネットワークを構築します。

Aims of Establishing the Keio Museum Commons

Takami Matsuda
Director, Keio Museum Commons
/Professor, Faculty of Letters, Keio University

Keio University has purchased or taken donations of many cultural assets and art works over its history of more than 160 years, which are now in its holdings. The Keio Art Committee, Media Centers (Libraries), Keio University Art Center (KUAC), the Department of Archaeology and Ethnology, the Department of Aesthetics and Science of Art, Komonjoshitsu, the Fukuzawa Memorial Institute for Modern Japanese Studies, and the Institute of Oriental Classics (Shido Bunko) are responsible for the preservation and management of these cultural assets according to their classification, which encompass a diverse range from paintings and sculptures to archeological materials and historical documents. Some of these pieces are displayed at venues such as the Keio Corporate Administration Building (Jukukan-kyoku) or the Banraisha lounge, while others have been made accessible via special exhibitions at the Art Space of the Keio University Art Center or the exhibition space of the Keio University Library. However, until now, it has not been possible to have a fully-fledged exhibition and storage facility dedicated to art, nor to create an integrated database of the cultural properties of Keio University, which are dispersed across multiple campuses, including the affiliated schools.

In 2009, Keio University received a consignment of 1,740 items focused on calligraphic and painted materials as well as a donation for their use from the Century Cultural Foundation, and held regular exhibitions and conducted research using them. In 2017, this foundation donated a further 585 items to the existing consignment of 1,740 for the total of 2,325 items which comprise the Century Akao Collection, as well as the fund to build a new facility to store and display the collection.

Over the history of Keio University, the idea of storing the cultural assets of the university in a suitable environment and building a museum for permanent exhibition on Mita Campus was brought up several times, but this could not be realized to date due to various circumstances. However, thanks to the donation from the Century Cultural Foundation, the construction of a facility dedicated to the storage and exhibition of academic resources has now become a reality.

In 2017, working groups were convened to begin deliberations on a new facility and how it should be organized. With most of the major universities in Japan already having some form of university museum, and Keio University being a latecomer, it was imperative that we propose a facility based on a groundbreaking concept in spite of the space restrictions. These deliberations bore fruit in the form of a "Museum Commons", an innovative idea with few precedents on a worldwide scale, and the Keio Museum Commons (KeMCo) was established in April 2019. KeMCo's activities will be based in the East Annex, situated at Sakurada-dori, completed in September 2020. KeMCo will celebrate its grand opening as the first dedicated facility for exhibition and storage of Keio University in April 2021.

The role of KeMCo is not limited to the collection management and exhibition of cultural assets

in the holdings of Keio University, including the Century Akao Collection. At Mita Campus, the Art Space at the Keio University Art Center and the exhibition space at Mita Media Center already function as venues for the exhibition of artworks and rare books, with the Fukuzawa Yukichi Memorial Keio History Museum also set to open in the Old Library building in the spring of 2021. In addition, there is no shortage of examples of valuable architecture on campus, with the Old Library and Mita Public Speaking Hall (Mita Enzetsu-kan)—important cultural properties—, and the Ex Noguchi Room among the representative examples. The Mita Campus as a whole can be characterized as a "distributed museum." As its hub, KeMCo will work to interconnect information on cultural resources and support exhibitions and educational activities.

Furthermore, Keio University has been actively endeavoring to construct advanced digital environments for cultural assets since its purchase of the "Gutenberg Bible" in 1996. KeMCo incorporates the KeMCo Studl/O, a pioneering fabrication facility which aims to expand digital environments in order to draw out the power of art, in collaboration with the Research Institute for Digital Media and Content, Faculty of Science and Technology, Graduate School of Media Design (KMD), and others.

As an heir to the tradition of the "common room" at universities, KeMCo is a vacant lot for creativity in education, research, and regional and international cooperation. It is a new space that makes a reality of "jinkan kosai" through education, research, and the activities of the international community centered on cultural assets.

The Vision of Keio Museum Commons (KeMCo)

A "Commons" that generates interaction

KeMCo serves as a place where diverse communities related to Keio University, including students, researchers, and graduates, can come together to generate ideas and discoveries by interacting with various objects, including cultural assets and academic resources.

Object-based research and learning

As a crossing point for communities and objects, KeMCo develops research that originates from objects and connects a wide range of disciplines. Utilising the university campus as an open museum, we actively reach out to a diverse range of learners. In addition to training for museum professionals, we also conduct educational activities for university and K-12 students, as well as working people.

A global hub for art and culture

KeMCo serves as a hub for Keio's cultural activities, such as exhibitions, collections, and learning and research activities that focus on objects. We also connect the output of these activities to the global context and promote international exchange.

Fusing analogue and digital environments

Taking advantage of our strength as a university museum closely connected to research and innovation, KeMCo promotes a new model for museum activities that responds to contemporary society by integrating analogue and digital environments.

Purpose

Planning and organising exhibitions and related programmes

KeMCo plans and organises exhibitions and related programmes, such as conferences and workshops, that reflect current research and educational developments. We work collaboratively with research activities in various fields to host these programmes, creating a fusion of analogue and digital environments.

Collection management and research

KeMCo conducts research and surveys on the cultural assets in our holdings, and undertakes appropriate conservation and restoration. We also work with other committees and departments to gather information and conduct research on Keio's collections.

Operating the digital fabrication laboratory

KeMCo's digital fabrication laboratory, "KeMCo StudI/O," facilitates the digitisation of cultural assets and fabrication using digital data. The lab offers the opportunity to learn about the relationship between digital and analogue objects through hands-on activities, and develop cross-media creativity.

Publishing

In addition to the annual report, KeMCo publishes a research bulletin and book series. We also publish catalogues and reference books to accompany exhibitions and other programmes.

Supporting activities related to cultural collections

As a hub of a "distributed museum", KeMCo supports activities related to cultural collections at Keio. We provide advice on activities, including the use of the collections in exhibitions and classrooms. We also aim to develop tools and digital content to support these activities.

Developing and sharing information about cultural collections

KeMCo develops and operates an information platform that provides a comprehensive overview of Keio's cultural collections, including exhibitions and other related activities. The platform will be connected to cultural databases in Japan and abroad, placing Keio's collection within a global and open network. We also carry out necessary research and support the stakeholders in charge of collections.

Creating a network of university museums

Through conferences, joint workshops, and other programmes, KeMCo builds networks with other university museums in Japan and abroad.

沿革

2016年

- 4月21日 学術資料展示施設 検討小委員会(仮称)
- 12月21日 学術資料展示施設検討委員会(親委員会)

2017年

- 1月11日 学術資料展示施設検討委員会 第1回ワーキング・グループ
- 11月13日 新展示施設検討準備室 第1回ミーティング
- 12月12日 常任理事会にて「慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室の設置およびこれに伴う慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室規程の制定について」可決

2018年

- 1月1日 慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室の設置(室長:松田隆美文学部教授)、慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室規程の施行
- 1月31日 一般財団法人センチュリー文化財団からの資料寄贈と寄付金についてプレス・リリース

2019年

- 1月25日 大学評議会にて「ミュージアム・コモンズの設置および同規程の制定について」承認
- 2月8日 常任理事会にて「慶應義塾ミュージアム・コモンズの設置およびこれに伴う慶應義塾ミュージアム・コモンズ規程の制定ならびに慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室および慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室規程の廃止について」可決
- 3月31日 慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室および慶應義塾学術資料展示施設(仮称)開設準備室規程の廃止
- 4月1日 慶應義塾ミュージアム・コモンズの設置[機構長(松田隆美文学部教授)、副機構長(渡部葉子アート・センター教授)、専任所員2名]、慶應義塾ミュージアム・コモンズ規程の施行
- 4月17日 「学術資料展示施設(仮称)」(現・東別館)着工
- 7月5日 第1回 慶應義塾ミュージアム・コモンズ運営委員会(以下、年1回開催)
- 11月27日 第1回 慶應義塾ミュージアム・コモンズ評議会(以下、年2回開催)

2020年

- 9月18日 東別館(ミュージアム・コモンズ展示施設ほか)竣工

2021年

- 2月25日 センチュリー文化財団からの美術資料寄贈覚書調印式
- 4月19日 慶應義塾ミュージアム・コモンズ開館

History

2016

- April 21 Preparatory Subcommittee, Academic Resources Exhibition Facility (provisional name)
- December 21 Academic Resources Exhibition Facility Preparatory Committee (parent committee)

2017

- January 11 1st Working Group, Academic Resources Exhibition Facility Preparatory Committee
- November 13 1st Meeting of the New Exhibition Facilities Preparatory Office
- December 12 “Establishment of a Preparatory Office for the opening of the Keio University Academic Resources Exhibition Facility (provisional name) and enactment of regulations for the opening of the Preparatory Office for the Keio University Academic Resources Exhibition Facility (provisional name)” approved at the Keio University Executive Board meeting

2018

- January 1 Establishment of a Preparatory Office for the opening of the Keio University Academic Resources Exhibition Facility (provisional name; Director: Professor Takami Matsuda, Faculty of Letters); enactment of regulations for the Preparatory Office for the opening of the Keio University Academic Resources Exhibition Facility (provisional name)
- January 31 Press release on transfer of ownership of artworks and resources and donation from the Century Cultural Foundation

2019

- January 25 Approval of “Establishment of a Museum Commons and enactment of regulations for the establishment thereon” at the University Council meeting
- February 8 “Establishment of the Keio Museum Commons and enactment of the accompanying regulations of establishment, and subsequent discontinuation of the Preparatory Office for the opening of the Keio University Academic Resources Exhibition Facility (provisional name) and regulations of the Preparatory Office” approved at the Keio University Executive Board meeting
- March 31 Discontinuation of the Preparatory Office for the opening of the Keio University Academic Resources Exhibition Facility (provisional name) and regulations thereon
- April 1 Establishment of the Keio Museum Commons [(Director: Professor Takami Matsuda, Faculty of Letters; Vice Director: Professor Yoko Watanabe, Keio University Art Center), two Senior Assistant Professors]; enactment of the Keio Museum Commons regulations
- April 17 Beginning of construction on the Academic Resources Exhibition Facility (provisional name) (current East Annex)
- July 5 1st Keio Museum Commons Steering Committee meeting (below, once-yearly meeting)
- November 27 1st Keio Museum Commons Council meeting (below, twice-yearly meeting)

2020

- September 18 Construction on East Annex (KeMCo exhibition room, storage, and other facilities) completed

2021

- February 25 Signing ceremony of the memorandum of understanding for the donation of artworks and resources from the Century Cultural Foundation (between the foundation and Keio University)
- April 19 Opening of Keio Museum Commons

東別館の建築とKeMCoの設備

2020年9月、KeMCoの活動拠点である三田キャンパス東別館が竣工した。常に人の行き交う桜田通りに面したこの場所を、KeMCoのコンセプトである創造的な「空き地」として機能させるために、2017年から設計者とミーティングを幾たびも繰り返した。限られた敷地面積の中で、ミュージアムとしての基本的な機能を保ちながら、デジタル展開も含むさまざまな活動をホストするためのスペースをデザインすることは、大変に困難な作業だったと思う。

また建設中には、令和元年台風第19号や新型コロナウイルス感染症の流行など、誰も予想していなかった事態にも見舞われた。そのような中で無事グランド・オープンを迎えられたことを、建築に関わっていただいたすべての皆さんに感謝したい。

簡単ながら以下に、東別館の建築と設備を紹介する。

(参考:慶應義塾大学(三田)東別館建て替え工事 冊子[株式会社 三菱地所設計 編集])

設計監理	株式会社三菱地所設計
施工	(建築)東急建設株式会社 (電気設備)日本電設工業株式会社 (機械設備)三建設備工業株式会社
階数	地上11階、階高3.7m～4.9m
建物高さ	47.61m
構造	鉄骨造
建築面積	418.70㎡
延床面積	2,405.68㎡
工期	2019年4月15日～2020年9月18日
外装材	(東面)PC板、アルミカーテンウォール (南北面)押出成型セメント板、アルミパネル (西面)押出成型セメント板、アルミカーテンウォール



キー・コンセプト

設計を担当した三菱地所設計とディスカッションを重ねる中で、3つのキー・コンセプトが生まれた。

1

街とキャンパスをつなぐ建築

1959年の南校舎竣工により南側に正門が移動するまで、キャンパスの東側は、三田の街とキャンパスを繋ぐ玄関口だった。東別館では、エントランス・ホールから続く大階段や、キャンパスに張り出すガラスボックスを設けることによって、かつての歴史的な通路を継承することを目指した。



East Annex Architecture and KeiWCo Facilities

2

キャンパスの歴史・自然と対話する場の創造

キャンパスの東側には、福澤公園をはじめとする豊かな緑がある。東別館では、低階層を階段状にして緑を配したテラスを設け、擁壁の緑化も合わせて行うことで、キャンパスとつながる緑のネットワークを作り出すことを試みている。またテラスからは、曾禰中條建築事務所設計の塾監局と図書館旧館、そして槇文彦設計の図書館新館といった建築群や、彫刻、碑文をはじめとする塾の文化財を一望することができ、キャンパスの歴史や文化と対話する場所としても機能する。



East Annex Architecture and KeiWCo Facilities

3

機能を発信する外観のデザイン

KeMCoは、展覧会・ワークショップ・授業など、人々やオブジェクトの交流に基づいたさまざまな活動を支え、外部に発信する役割を担っている。桜田通りに面したファサードでは、建物の中で展開するこれらの活動と、それを支える多様な機能を表現するデザインが試みられた。ガラスとパネルを組み合わせた外壁の、左下から右上に向かって大きくなってゆくモジュールは、多様な活動や交流のありようとその展開を表現している。パネルのところどころにさざ波のように緩急をつけて浮き出しているのはベンマークだ。全面ステンレスのエントランス扉は通りの風景を映し、建物を街に溶け込ませている。



フロア

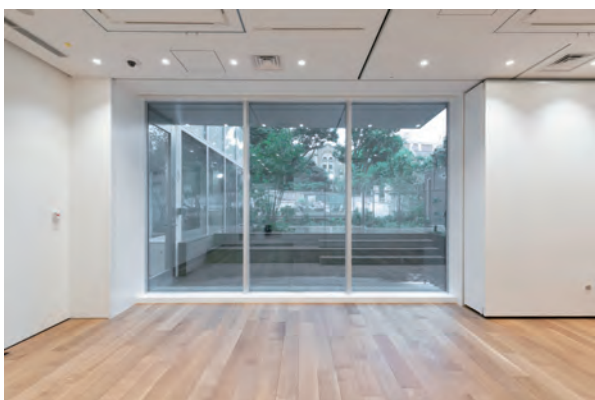
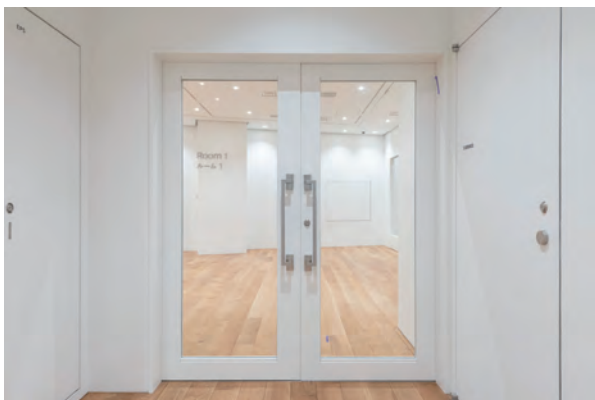
収蔵庫とオープン・デポ

2F、6F、7Fは収蔵庫で、慶應義塾の文化財を収蔵するほか、新たにセンチュリー文化財団より寄贈されたセンチュリー赤尾コレクションを保管する。

「オープン・デポ」と名付けた2Fの収蔵庫の前室は、階段に面した壁面がガラス張りになっている。近年、国内外のミュージアムでは、収蔵庫の一部を来館者がガラス越しに見ることができる展示形態「ヴィジブル・ストレージ (Visible Storage; 目にみえる収蔵庫)」が盛んに試みられている。KeMCoでは、このヴィジブル・ストレージの考えを一步すすめ、収蔵庫の前室での活動をオープンにする「オープン・デポ」を設計した。

収蔵庫前室は、作品の保存、調査、修復、貸し出しなどのコレクションを巡る活動が展開される場であり、作品を前にした教育の場であり、また展示の企画が生み出される場でもある。オープン・デポでは、コレクションを構成する作品だけではなく、作品をめぐる活動に焦点をあて、オープンにしていこうことによって、文化財の背後にある人々の繋がりや、多層的な知の営みを可視化したいと考えている。





3F 展示室 / Room1・2

展示のためのスペース

3Fの展示フロアには、小規模・短期間の展示を並行して実施することができるように、小ぶりの展示室を二つ用意し、かつ、空間を分割するスライディングウォールを設けた。天井を見ると、この展示室が少し変わっていることに気づくかもしれない。さまざまな展示、とりわけ電源の確保や柔軟な空間設計を必要とする現代アートなどにも対応できるよう、部屋のサイズからすれば多すぎるほどのダクトレールとピクチャーレールを設置した。またルーム1には、これまで三田で実現できなかった、屏風などの大型・横長の作品の展示を可能にするウォールケースを導入している。

一方、大型の展覧会にも対応できるように、5Fの実習室や9Fのカンファレンス・ルームなど、展示フロア以外の壁も可能な限り展示用壁面として設えた。また、階段下のスペースや作業用通路などのちょっとした「隙間」にも、映像投影やケース展示ができる仕組み(スキマ・インスタレーション)を工夫した。

共同作業のためのオフィス

4Fのオフィスは、慶應義塾ではまだ珍しい「アクティビティ・ベースト・ワーキング(Activity Based Working)」を取り入れた設計になっている。職員と教員がスペースを共有し、その時の作業内容・活動によって場所を変えながら仕事をする。ミュージアムでは、教職員やさまざまなスタッフが緊密に連携をとりながら運営していく必要があるため、共同作業に適したオープンなオフィスであることを心がけた。

教育と研究を支える

5Fには、スロップシンク、展示壁面、実習台を備える実習室が、9Fには45名程度までの集会に対応するカンファレンス・ルームがある。当初の計画にはなかったが、新型コロナウイルス感染症への対応で急速に進展したオンラインでの教育・研究を支えるため、これら2つの部屋と8FのKeMCo Studl/Oに遠隔機材を導入した。

オンライン、あるいはリアルとオンラインを併用するハイブリッド型の活動をホストするにあたり、なにより調整が難しいのは音声だ。マイクが入っていないなかったり、マイクからの距離が遠かったりしたことに気づかずディスカッションを続け、インターネットの向こう側の人々を置き去りにしてしまった経験は、誰もが持っているだろう。また、現地参加とオンライン参加の双方が存在するとき、ハウリングを起こさないように音声をコントロールするには、事前の十分な準備が必要だ。

このような技術的なハードルを極力取り除き、研究・教育自体に集中して取り組めるよう、東別館では特別なシーリングマイクを導入するなど、新たな機材の構成を試みている。



5F 実習室／Workshop Room



9F カンファレンス・ルーム／Conference Room

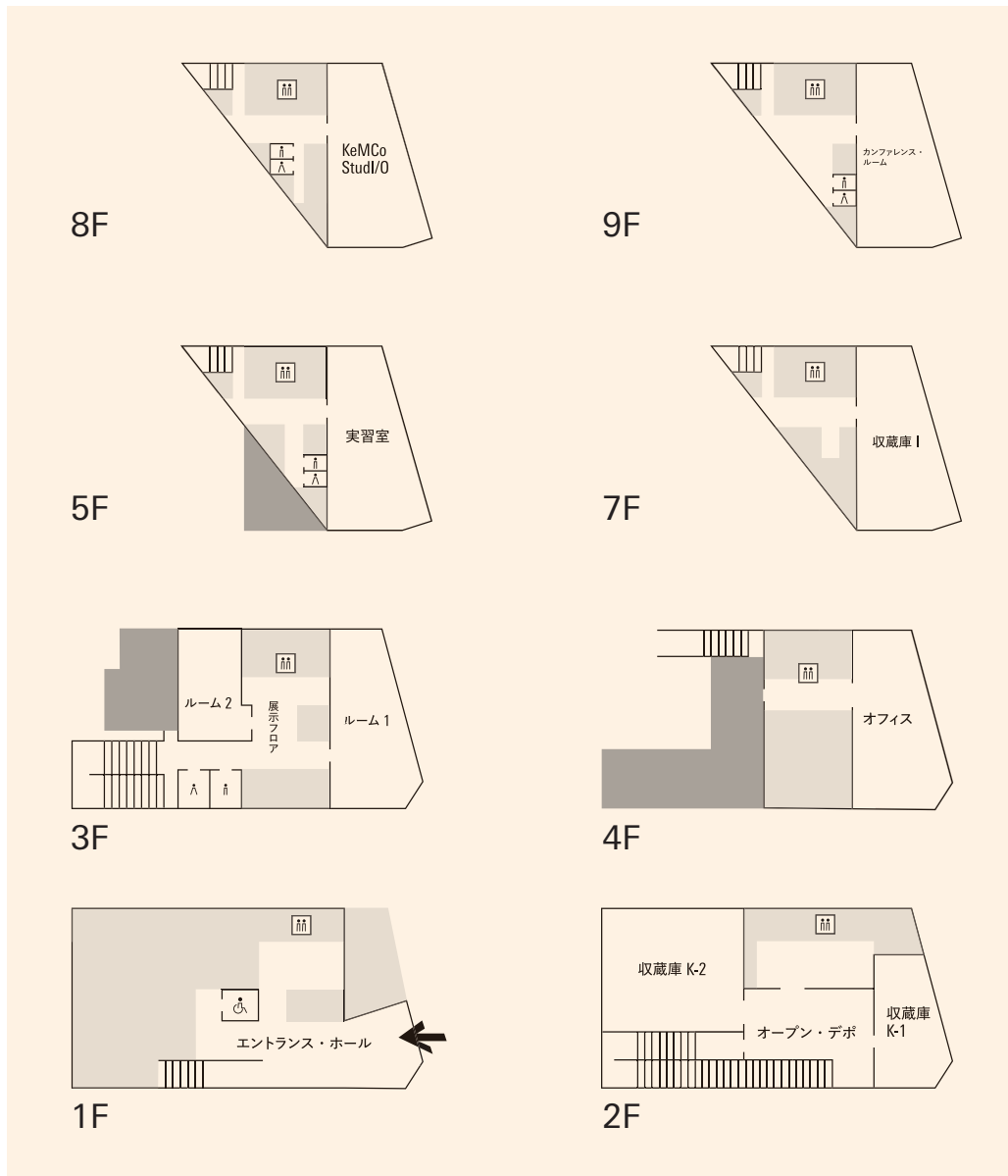
KeMCo Studi/O

8Fの「KeMCo Studi/O (ケムコ・スタジオ)」は、デジタル・アーカイヴのようなデジタル空間に存在する文化財と、現実の(アナログの)文化財をつなぐ場として設置された。3Dスキャンにも対応したデジタル化機能と、デジタル・データを用いて、3Dプリンタなどの工具を駆使して工作を行う機能を兼ね備えたこの部屋では、ミュージアムにおける展示・収蔵の実践と間近に接しながら、デジタルとアナログの関係性を体験を通じて学ぶとともに、メディア横断的な創造を展開することができる。スタジオの、またKeMCo全体のシンボリックな作品として、大山エンリコイサム氏(環境情報学部卒)によるコミッション・ワーク《FFIGURATI #314》が設置されている。



artwork: © Enrico Isamu Oyama photo: © Katsura Muramatsu (Calo works)

ここまで紹介してきたように、KeMCoの施設には、さまざまな機能が詰め込まれている。グランド・オープンを迎える2021年度以降、塾内外のさまざまな人々とディスカッションしながら、施設の活用を進めていきたい。
(記=本間)



East Annex Architecture and KeMCo Facilities

In September 2020, the reconstruction of the Mita Campus East Annex, home of the Keio Museum Commons activities, was completed. In order to make this place function as a creative "open space", based on the concept of KeMCo, we had many meetings with the architects since 2017. It was challenging to design a space that could host a range of activities, including digital developments, while keeping the essential function of a museum within a limited site area.

During the course of construction, the project faced unexpected challenges, such as Typhoon No.19 in 2019 and the outbreak of the COVID-19. We would like to thank everyone involved in the project for making it possible for us to celebrate the grand opening.

The following is a brief introduction to the architecture and facilities of the East Annex. (Reference: Keio University Mita East Annex Reconstruction Booklet [edited by Mitsubishi Jisho Sekkei Inc.])

Key Concept

In discussions with Mitsubishi Jisho Sekkei, the architect in charge of the project, three key concepts were developed.

1. Architecture linking the city and the campus

Until 1959, when the main gate was moved to the south side of the campus with the completion of the south school building, the east side of the campus was the gateway between the city of Mita and the campus. In the East Annex, we aimed to inherit the historical pathway by installing a grand staircase leading from the entrance hall and a glass box overhanging the campus.

2. Creation of a place for dialogue with the history and nature of the campus

On the east side of the campus, there is a rich greenery, including Fukuzawa Park. In the East Annex, we have tried to create a network of greens connected to the campus by terracing the lower levels with greenery and redesigning the retaining walls. The terrace overlooks the Old Library and the Keio Corporate Administration Building by Sone Chujo Architectural Office, and the New Library designed by Fumihiko Maki, surrounded by cultural assets such as sculptures and inscriptions.

3. Design of the exterior which transmits the function

KeMCo plays a role in supporting and communicating to the society a variety of activities based on the interaction of people and objects, such as exhibitions, workshops and classes. The design of the façade facing Sakurada-dori is an attempt to express these activities that take place inside and the various functions that support them. The modules of the glass and panel façade, which increase in size from the lower left to the upper right, express the richness of KeMCo's activities and communication and how they develop. The panels are marked with a pen mark, rising and falling like a ripple. The entrance door, made entirely of stainless steel, reflects the street's scenery and blends the building into the city.

Floors

Storage and open depot

The second, sixth and seventh floors are the storage rooms, which house Keio's cultural assets and the Century Akao Collection, newly donated by the Century Cultural Foundation.

The preparation room on the second floor, named "Open Depot", has a glass wall facing the staircase. In recent years, museums in Japan and abroad have been experimenting with the idea of "Visible Storage", one form of exhibitions where visitors can see part of the storage space through the glass. KeMCo has taken this idea of visible storage one step further and designed an "Open Depot" to open up the activities in the preparation room.

The preparation room is a place where activities related to the collection, such as preservation, research, conservation, lending, etc., take place. It is also a place for education in front of the works, and a place where exhibition projects are created. Open Depot focuses not only on the objects that make up the collection but also on the activities surrounding the objects so as to visualise the connections between the people behind the cultural heritage and the multi-layered activities of knowledge.

Space for exhibitions

On the exhibition floor on the third floor, there are two small exhibition rooms and a sliding wall for holding small and short exhibitions in parallel. If you look at the ceiling, you may notice that this room is a little unusual. We have installed more duct rails and picture rails, than are necessary for the room's size to accommodate various exhibitions, especially contemporary art, which requires a power supply and flexible spatial design. In Room 1, wall cases have been installed to enable displaying large, horizontal works such as folding screens, which were previously not possible in Mita.

In order to accommodate large exhibitions, walls outside the exhibition floors, such as those in the 5th-floor workshop and the 9th-floor conference room, were designed to be exhibition walls wherever possible. We also devised a system of "Sukima Installation (installation in gap space)", which allows for the projection of images and the display of cases in small "gaps", such as space under the stairs and the work passage.

Office for collaborative working

The fourth-floor office was designed based on "Activity Based Working", a concept that is still rare at Keio University. Staff and faculty share the same space and choose locations depending on the task or activity at hand. As the museum requires close collaboration between faculty and staff, we have created an open office environment suitable for collaborative work.

Supports teaching and research

On the 5th floor is a workshop with a slop sink, exhibition wall and lab tables, and on the 9th floor is a conference room for gatherings of up to 45 people. Although it was not part of the original plan, we installed remote equipment in these two rooms and in the KeMCo StudI/O on the 8th floor to support online teaching and research, which has developed rapidly in response to the COVID-19.

The most challenging part of hosting online or hybrid activities is the audio. We've all had the experience of leaving people on the other side of the internet behind as we carry on a discussion without realising that the microphone is either not on or too far away. Also, when there are both local and online participants, controlling the audio to avoid howling needs to be done well in advance.

In order to remove these technical hurdles as much as possible and to be able to concentrate on the research and teaching itself, we try to configure new equipment such as special ceiling microphones in the East Annex.

KeMCo StudI/O

The “KeMCo StudI/O” on the 8th floor was set up as a place to connect the real (analogue) cultural properties with those that exist in digital spaces such as digital archives. With its digitisation facilities (including 3D scanning) and its creation tools (such as 3D printers), the room allows visitors to learn about the relationship between digital and analogue objects through hands-on experience and cross-media creation, in close contact with the museum's exhibition and collection practices. As a symbolic work for the studio and KeMCo as a whole, a commissioned work *FFIGURATI #314* by Enrico Isamu Oyama, a graduate of the Faculty of Environment and Information Studies, has been installed.

As we have seen so far, KeMCo’s facilities are packed with a variety of functions. From the grand opening in 2021 onwards, we hope to promote the use of the facilities through discussions with various people inside and outside the school. (text=Yu Homma)

<u>Design supervision</u>	Mitsubishi Jisho Sekkei Inc.
<u>Construction</u>	(Building) Tokyu Construction (Electrical equipment) Nihon Densetsu Kogyo Co., LTD. (HVAC equipment) Sanken Setsubi Kogyo Co., LTD.
<u>Floors</u>	11 floors above ground, floor height 3.7m - 4.9m
<u>Building height</u>	47.61m
<u>Structure</u>	Steel-frame construction
<u>Building area</u>	418.70m ²
<u>Total floor area</u>	2,405.68m ²
<u>Construction period</u>	15 April 2019 - 18 September 2020
<u>Exterior materials</u>	(East face) PC board, aluminium curtain wall (North-south face) extruded cement board, aluminium panels (West face) extruded cement board, aluminium curtain wall

KeMCoロゴとVI

KeMCoの施設サインおよびロゴデザインは、KeMCoの理念そのものから生まれている。文字や線は枠のみを有し、そして必ずどこかに開口部がある。閉じられていない線で構成されたこの文字とロゴは、学内・学外の人びとと協働する開かれた組織であろうとするKeMCoの姿をあらわしている。

デザイン | 川村格夫 (ten pieces)

デザイン・コンセプト

KeMCoは、文化財や作品を中心としながら様々な催しや関わりが生まれ、多様な人／階層で発展していけるようなオープンな場。

文字の枠線を省略することで外へ広がっていくような印象を与え、行き来したり何かを繋いだり通路のようなイメージを表現する。

キーワード

メディウム／関わりやすさ／使われ方の余地(余白)を残す／ハブ(通過点)／塗り絵感(積極的な関わり、能動性を生み出す)

Ke M Co Keio Museum Commons
慶應義塾ミュージアム・コモンズ

Ke M Co Keio Museum Commons
慶應義塾ミュージアム・コモンズ

KeMCo Logo and Visual Identity

KeMCo's facility signage and logo design is born from the KeMCo philosophy itself. The letters and lines have only the frame lines, and there is always an opening somewhere. The letters and the logo are made up of unclosed lines and represent KeMCo's vision of being an open organisation that collaborates with people inside and outside Keio University.

Design | Tadao Kawamura (ten pieces)

Design concept

KeMCo is an open space with cultural assets and artworks at its center. At KeMCo various events and relations can take place, and diverse people develop their activities at various levels.

By removing the frame lines of the letters, it gives the impression of spreading outwards and expresses the image of a passage to go back and forth or to connect something.

Keywords

Medium / Easy to engage / Leaving room for use (margin) / Hub (point of passage) / Like a colouring book (welcoming active engagement and proactivity)



KeMCoデジタル×アナログ融合プロジェクト

重野 寛

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 副機構長

／理工学部教授

KeMCoではデジタル・アナログ融合型の展示・研究・教育プログラム、文化財活用のサポート、コレクションの管理と活用などを目指し、デジタル空間と実在のオブジェクトや空間をつなぐ環境の設計に注力している。2020年度はKeMCoの活動の基礎となるデータ基盤であるデジタルアーカイブのためのシステム整備を進めた。また、本格的な撮影室や3Dプリンターなどを設置したスタジオ(KeMCo Studio)や館内の3フロアでの遠隔会議設備の整備を完了した。

KeMCoデジタルアーカイブのシステム整備

KeMCoのデータ基盤は大きく分けて、ミュージアムシステム、オンラインエクスペリエンス、KeMCo APPSの3パートから構成される。ミュージアムシステムを中心として、他の2つのパートが連携し、文化財データをデジタル空間と物理空間の両方に展開する構成になっている。

ミュージアムシステムはデータ基盤の中核であり、KeMCoが収蔵する文化財のデータを蓄積するデータベースや、博物館業務を支援するシステムなどが含まれる。ここでは、文化財や文化財データの利活用に関する履歴も記録される。

オンラインエクスペリエンスはKeMCoが提供するインターネット上のサービスとそれらを提供するシステムである。KeMCoのウェブサイト、塾収蔵文化財横断検索サービス、インターネットで閲覧できるオンライン展覧会などを提供する。

KeMCo APPSは主としてKeMCoの館内での展示をデジタル技術により支援するシステムである。館内の展示にデジタル情報を付加するモバイルアプリ、館内のちょっとした空間での映像投影やケース展示を提供するスキマ・インストールなどがある。

ミュージアムシステムについては、初期リリース版に向けて、データベースなどを中心に仕様を策定し、開発を進めている。今後、KeMCoのグランドオープン前に運用を開始し、KeMCoが受け入れる文化財のデータの整備を進める予定である。

オンラインエクスペリエンスについては、塾収蔵文化財横断検索のためのWebサービスであるKeio Object Hub (KOH)の仕様を策定し、開発を進めている。全10回のワークショップを行い、コンセプト、機能、サイトマップ、ビジュアルデザインなどを検討した。その結果をもとにシステムの仕様を確定し、初期リリース版に向けた開発に着手した。KOHもグランドオープンに合わせてサービスを開始する予定である。

KeMCo APPSのスキマ・インストールについて、大小様々な企画について実現性を含めて検討した。適切なタイミングで提供できるよう、今後も継続的に検討を進める。

KeMCo Studi/O

KeMCo Studi/Oの整備

多様なファブリケーションに対応したクリエイション・スタジオであるKeMCo Studi/Oを整備した。ミュージアムにおける文化財の展示・収蔵の実践の場とデジタル情報の生成・活用の場を近接させ、体験を通じてデジタルとアナログの関係性を学ぶとともに、メディア横断的な創造を展開することを狙っている。東別館内の1フロアを確保し、その一部は撮影やデジタルスキャンのためのスタジオになっている。また、デジタルデータの利活用のために、データ処理やモデリングのためのPC、2次元スキャナー、高精細カメラ、3次元スキャナー、レーザーカッター、3次元プリンタなどを導入した。

KeMCo館内フロアの遠隔会議対応

塾内外に向けた、対面、遠隔のハイブリッドの研究・教育活動に対応すべく、東別館内のカンファレンスルーム、KeMCo Studi/O、実習室の3つのフロアに遠隔会議システムを導入した。これらのフロアにはカメラ、マイク、大型ディスプレイなどが備え付けられ、主要な遠隔会議サービスを手軽に利用できる。フロア全体を使った討論や文化財等を用いた実習などを想定し、カメラやマイクを取り回しが妨げとならないように壁や天井に設置した。移動式的大型ディスプレイや、個人が持参したノートPCなども利用できるBYOD (Bring Your Own Device) にも対応し、用途にあわせて柔軟で品質の高い遠隔会議・講義が実施できるように工夫されている。

KeMCo Digital × Analogue Fusion Project

Hiroshi Shigeno

Vice Director, Keio Museum Commons

/Professor, Faculty of Science and Technology, Keio University

At KeMCo, we are focusing on designing an environment that connects the digital realm with real objects and spaces, with the aim of supporting exhibition, research, and educational programs that integrate the digital and analogue, the utilization of cultural properties, and the management and deployment of collections. In AY 2020, we proceeded with the development of a digital archiving system, which will comprise the informational infrastructure underlying KeMCo's activities. Moreover, we completed construction on a studio (KeMCo StudI/O) equipped with a full-scale photo studio and 3D printers as well as setting up remote teleconference facilities on three floors of the building.

System setup and maintenance for the KeMCo digital archive

The informational infrastructure of KeMCo consists of three components—the Museum System, Online Experience, and KeMCo APPS. The latter two components will be linked together as part of the Museum System, which is structured around the deployment of information on cultural assets in both the digital realm and physical spaces.

The Museum System is the core element of the informational infrastructure, and includes a set of databases to store information and digital data on cultural assets housed at KeMCo and subsystems to support the museum's operations. The history of the utilization of cultural assets and information is also recorded on this system.

Online Experience refers to services provided via the Internet by KeMCo and the systems used to allow such provision. It will be used to deliver the KeMCo website, a service for cross-searching cultural assets in the holdings of Keio University, and exhibitions that can be viewed online.

KeMCo APPS is a collection of systems that will mainly be used to support exhibitions at the East Annex building by means of digital technology. It will include a mobile phone app used to provide supplementary information on exhibitions in the building in the digital realm, as well as digital-space installations that will provide video projections and case displays in the small gap space of the building.

For the Museum System, we have drafted specifications and are proceeding with development centered on databases toward an initial release version. Going forward, we plan to begin operation in advance of KeMCo's grand opening and prepare the data on cultural assets to be hosted at KeMCo.

For Online Experience, we have drafted the specifications and are proceeding with development of the Keio Object Hub (KOH), which will be an online service for cross-searching cultural assets in the holdings of Keio University. A total of 10 workshops were held to deliberate on the concept, functions, site map, visual design, and other aspects of KOH. As a result of this, the system specifications were finalized and development on the initial release version began. The launch of the KOH service is also scheduled to coincide with the grand opening.

Investigations were conducted into the digital-space installations of KeMCo APPS, including the feasibility of various projects, large and small. We will continue our discussions to ensure the provision of KeMCo APPS in a proper timing.

Setting up KeMCo StudI/O

KeMCo StudI/O, which will be a creative studio compatible with various forms of fabrication, is now ready for use. At the studio, you can interact with and learn about the relationship between digital and analogue, while getting a close up look at the sites of practice for displays and storage of cultural resources at a museum, as well as the sites where digital information is produced and deployed. It also aims to facilitate opportunities to develop mixed media creative works. One part of the floors of the East Annex building has been reserved as the location for a studio for photography and digital scanning. In addition, in order to utilize digital data, PCs for data processing and modeling, 2D scanners, high-definition cameras, 3D scanners, laser cutters, 3D printers, and other equipment have been incorporated into the studio.

Video conference and online meeting ready

To support face-to-face and remote hybrid research and educational activities both inside and outside Keio, we have introduced a video conferencing system on three floors: in the East Annex conference room, KeMCo StudI/O, and the workshop room. These floors are equipped with cameras, microphones, large displays, and other equipment which facilitate easy use of major video conferencing services. The cameras and microphones were installed on the walls and ceiling to ensure ease of handling, premised on discussions making use of the entire floor and practical training using cultural resources. In order to host flexible and high-quality video conferences that meet various needs, the room is equipped with large movable displays, and the set-up is also compatible with BYOD (Bring Your Own Device), which can be used with personal laptops.



Annual Report No.1
2020/2021
KeiWCo Digital x Analog Project



KeiWCo Digital x Analog Project







活動記録
Activities

展覧会 | オンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」

会期	2020年10月26日(月)～2021年2月28日(日)
場所	オンラインで開催
来場者数	4,767ユーザー
主催	慶應義塾
共催	慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻 慶應義塾大学文学部民族学考古学専攻 慶應義塾大学文学部古文書室 慶應義塾大学三田メディアセンター 慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫 慶應義塾福澤研究センター 慶應義塾大学アート・センター
運営	慶應義塾ミュージアム・コモンズ
開発デザイン	株式会社アドグローブ
3Dモデル制作協力	テックストレーキ株式会社
作成物	ポスター(A2)、チラシ(A4)
担当	本間友、宮北剛己
概要	

「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」は、アート・センター、文学部古文書室、斯道文庫、福澤研究センター、文学部美学美術史学専攻、文学部民族学考古学専攻、三田メディアセンターの7部署が連携し、慶應義塾の多様なコレクションから「人間交際」をテーマに57作品を出品したオンライン展覧会で、KeMCoが企画・運営を手がける初めての展覧会となった。

本来であれば、2020年7月、福澤諭吉記念慶應義塾史展示館とKeMCoの施設が完成する機会に、アート・センターのアート・スペースと三田メディアセンターの展示室を会場に、リアルな展覧会として行われる予定だった。しかし、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況を鑑み、5月末の段階でリアルでの開催を中止し、オンライン展覧会へと企画を移行させた。6月から2ヶ月という短期間で、オンライン展覧会に関わる技術や周辺領域も含めた動向を調査し、デジタルだからこそ実現できる鑑賞体験について検討した。8月から本格的な開発を進め、10月末のKeMCoプレビューイベントにあわせて「RoomX」をリリースした。RoomXが生まれるまでのディスカッションやRoomXの意義については、また稿を改めてお伝えしたい。

(記＝本間)

Exhibition | Online Exhibition “Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)”

<u>Date</u>	Monday, October 26, 2020–Sunday, February 28, 2021
<u>Venue</u>	Online exhibition
<u>Participants</u>	4,767 users
<u>Host</u>	Keio University
<u>Cohosts</u>	Keio University Faculty of Letters Department of Aesthetics and Science of Arts Keio University Faculty of Letters Department of Archaeology and Ethnology Keio University Komonjoshitsu Keio University Mita Media Center Keio University Institute of Oriental Classics (Shido Bunko) Keio University Fukuzawa Memorial Center for Modern Japanese Studies Keio University Art Center
<u>Management</u>	Keio Museum Commons
<u>Development Design</u>	Adglobe Inc.
<u>3D Modeling Support</u>	Tech Strake
<u>Publication</u>	Poster (A2), flyer (A4)
<u>Staff</u>	Yu Homma, Goki Miyakita

Overview

“Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)” is an online exhibition featuring 57 works from Keio University’s diverse collections under the theme of “Jinkan Kosai”, organised in collaboration with seven departments: Art Center, Department of Aesthetics and Science of Arts, Archaeology and Ethnology (Faculty of Letters), Fukuzawa Memorial Center for Modern Japanese Studies, Institute of Oriental Classics (Shido Bunko), Komonjoshitsu, Mita Media Center. This was the first exhibition planned and managed by KeMCo.

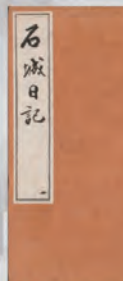
Initially, the exhibition was planned to be a real one at the Art Center’s art space and the Mita Media Center’s exhibition room, taking the opportunity of the completion of the Fukuzawa Yukichi Memorial Keio History Museum and KeMCo’s facilities in July 2020. However, given the new coronavirus infection situation, we cancelled the real exhibition at the end of May and shifted the plan online. The discussions leading up to the creation of RoomX and the significance of RoomX will be reported in another article. (text=Yu Homma)

Keio
Exhibition
RoomX

Annual Report No. 1
2020/2021
10/2 Mon. -
12/25 Fri.

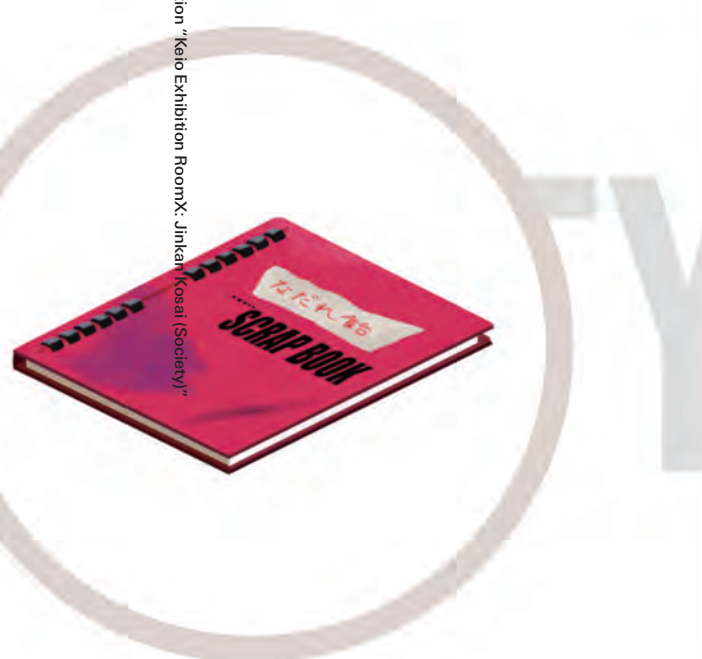
オンライン展覧会

人間 交際



Artworks
Exhibition
Online Exhibition "Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)"

←
ホームに
戻る



制作者

土方巽

制作年

1972年

素材・技法

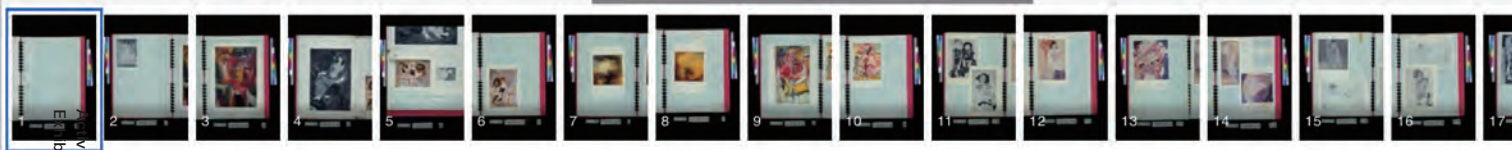
スクラップブック、インク、鉛筆

内容記述

NPO法人舞踏創造資源より寄託

所蔵

アート・センター

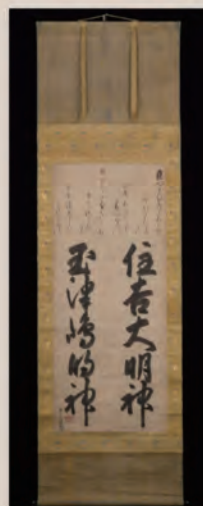


日本古典文学の中心的存在である和歌は、長きにわたって多くの歌人達によって、様々な場で詠み出されてきた。創作は孤独な営為のように思われがちだが、古典和歌においては、その詠出は人々が集う場でなされるのが公式な方法であったのである。その場が歌会や歌合である。主催者の呼びかけで集まった歌人達は、詠作の場を照覧する歌神像の前で用意してきたものやその場で詠じた歌を声に出して詠み上げ、時に

[全文を読む](#)

斯道文庫
Scroll

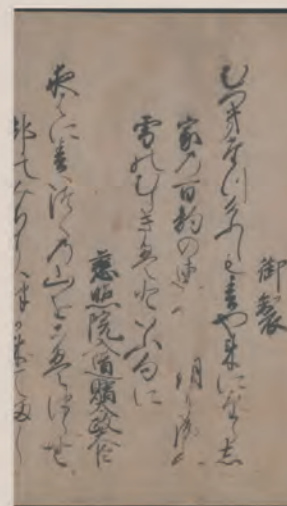
歌会・連歌会に集う人々



住吉大明神・玉津島明神神号
室町中期



北野社連歌懐紙
慶長16~7年(1611-12)頃



新撰菟玖波集 存巻1
明応4年(1495)頃

プロジェクト|慶應義塾ミュージアム・コモンズ プレビュー／Commissioned by KeMCo 2020

日時	2020年10月26日(月)～29日(木) - 10月26日(月)～28日(水) 10:00～18:00 施設見学 - 10月26日(月) 18:30～20:00 山田健二 アーティスト・トーク - 10月28日(水) 18:30～20:30 大山エンリコイサム アーティスト・トーク - 10月29日(木) 12:00～19:00 施設見学(作家関係者のみ)
場所	慶應義塾大学 三田キャンパス 東別館、東館6階G-Lab. - 施設見学:東別館1階エントランス、2階オープン・デポ、3階展示室、7階収蔵庫(27日のみ)、8階KeMCo Studl/O - Commissioned by KeMCo:大山エンリコイサム／山田健二作品展示(8階／1階) - 山田健二 アーティスト・トーク:東別館1階エントランス ※Zoom Webinar同時開催 - 大山エンリコイサム アーティスト・トーク:東館6階G-Lab. ※Zoom Webinar同時開催
参加人数	施設見学:70名 トークイベント:145名(Zoom Webinarでの参加を含む)
参加方法	事前予約制(施設見学およびトークイベント会場参加は、招待者のみ)
主催	慶應義塾ミュージアム・コモンズ
作成物	フロアマップ、Commissioned by KeMCoチラシ、『慶應義塾名品撰』チラシ
担当	監修 松田隆美、渡部葉子、重野寛 企画・展示 本間友、松谷芙美、長谷川紫穂、小松百華 企画・技術 宮北剛己 事務・運営 竹越功、町出美佳、久保山彩華、小西麻貴子

概要

2020年10月26日からの4日間、「慶應義塾ミュージアム・コモンズ プレビュー」と題して、9月18日に竣工したKeMCoの施設を紹介するイベントを開催した。当初は広く一般の方々への公開を目指していたが、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況への対応から、関係者に限定した開催となった。

イベント期間中は、1F エントランス・ホール、3F 展示フロア、8F KeMCo Studi/O のフロアを自由に見学できるように設定し、曜日を限定して7F 収蔵庫の内部も公開した。各フロアには、設計の意図や今後どのように使われていくのかを記した「ステッカー」をたてた。このステッカーは、後述する山田健二氏の作品《MITA Intercept》と連動した仕掛けである。3Fの展示フロアでは、KeMCoがこれまでに行った活動の中から、UMAC東京セミナーの映像、発掘現場の記録映像の上映を行った。また、慶應義塾名品撰の先行展示も行われた。（記=本間）

プレビュー期間には施設公開と同時に、KeMCoのコンセプトや活動に共鳴したアーティストとのコラボレーション・プログラム「Commissioned by KeMCo」の作品2点がお披露目された。

まず来訪者を迎えたのは、エントランスで展示された山田健二氏による《MITA Intercept》。ソーシャル・エンゲージド・アートをベースとする山田氏は、東別館建設に伴う発掘調査を発端に、三田地区における地層と時間層の蓄積をコミュニティ内の対話（学生・教職員・地域住民）を通して探るリサーチ・プログラムを展開した。そして、大学キャンパスのなかのひとつの表現メディアであるステッカーをモチーフとした映像インスタレーションを制作、発表した。

また、8FのKeMCo Studi/Oでは、大山エンリコイサム氏の常設作品《FFIGURATI #314》が公開となった。建物円柱へのエアロゾル・ペインティングと、オーガンジー・カーテンへの転写プリントから成るこの作品により、大山氏独自のモチーフであるQuick Turn Structure (QTS) がスタジオ内を横断する。作品であると同時に、部屋を二分する間仕切りとしての機能をもつため、スタジオの使われ方、時間帯でさまざまな表情をみせてくれる作品である。

会期中にはそれぞれアーティスト・トークも開催。制限されたなかではあったが、大学生、一貫校生とアーティストの交流の機会をもつこともできた。KeMCoは、特に学生に対して作品をより身近に感じてもらうこともミッションのひとつとしているが、そうした観点からも、今回、二人の現代作家によるコミッションワークが実現し、プレビューにてお披露目されたことは大変喜ばしい機会となった。（記=長谷川）

Project | Keio Museum Commons Preview/ Commissioned by KeMCo 2020

<u>Date</u>	Monday, October 26–Thursday, October 29, 2020 - October 26–28 10:00–18:00 Facilities tour - October 26 18:30–20:00 Kenji Yamada artist talk - October 28 18:30–20:30 Enrico Isamu Oyama artist talk - October 29 12:00–19:00 Facilities tour (only invitees by the artists)
<u>Venue</u>	Keio University Mita Campus, East Annex and East Research Building 6F Global Research Lab. (G-Lab.) - Facilities tour East Annex 1F Entrance Hall, 2F Open Depot, 3F Exhibition Rooms, 7F Storage (only October 27), 8F KeMCo StudI/O - Commissioned by KeMCo Enrico Isamu Oyama, Kenji Yamada artworks exhibit (8F/ 1F) - Kenji Yamada artist talk: East Annex 1F Entrance Hall *Zoom Webinar, held at the same time - Enrico Isamu Oyama artist talk: East Research Building 6F G-Lab. *Zoom Webinar, held at the same time
<u>Participants</u>	Facilities tour: 70 Artist talk events: 145 (including participants on Zoom Webinar)
<u>Admission</u>	Free/advance reservations (only invitees due to the impact of COVID-19)
<u>Organizer</u>	Keio Museum Commons
<u>Publications</u>	Floor map, flyer for “Commissioned by KeMCo”, flyer for <i>One Hundred Treasures of the Keio Collections</i>
<u>Staff</u>	Supervision Takami Matsuda, Yohko Watanabe, Hiroshi Shigeno Planning & Exhibit Yu Homma, Fumi Matsuya, Shiho Hasegawa, Momoka Komatsu Planning & Technical Support Goki Miyakita Management Isao Takekoshi, Mika Machide, Saika Kuboyama, Makiko Konishi

Overview

A four-day event entitled “Keio Museum Commons Preview” was held from 26 October 2020 to introduce the facilities of KeMCo, which were completed on 18 September. Initially, the event was intended to be open to the public, but in response to the situation surrounding the COVID-19, the event was limited to stakeholders.

During the event, the Entrance Hall, the Exhibition Floor and the KeMCo Studl/O were shown to visitors, and the inside of the storage on the seventh floor was also open on limited days. On each floor, “Stickers (small standing signs)” were placed to describe the intentions behind the architectural design and how the room would be used in the future. On the Exhibition Floor, documentary films of the UMAC Tokyo seminar and the excavation project back in 2018 were projected, highlighting KeMCo’s past activities. The event also included the preview of the newly edited collection book *One Hundred Treasures of the Keio Collections*. (text=Yu Homma)

During the preview event, two artworks from the “Commissioned by KeMCo” program, a collaboration with artists who resonate with the concept and activities of KeMCo, were unveiled.

Firstly, visitors were welcomed by Kenji Yamada’s *MITA Intercept*, which was exhibited at the entrance. His work is based on socially engaged art and developed a research programme to explore the accumulation of strata and time layers in the Mita area through dialogue within the community (students, faculty, staff and local people), starting with excavations associated with the construction of the East Annex. He then created and presented a site specific installation work using stickers as a motif, which is one of the smallest media of expression on the Keio University campus.

In the KeMCo Studl/O on the 8th Floor, Enrico Isamu Oyama’s permanent work *FFIGURATI #314* was exhibited. Consisting of aerosol paintings on building columns and transfer prints on organza curtains, the work is based on his original motif “Quick Turn Structure (QTS)”, which traverses the studio. It is both a work of art and a partition that divides the room into two parts, so that it can be seen in different, depending on how the studio is used and at different times of the day.

Artist talks were held during the exhibition. Though there were some limitations, we were able to provide opportunities for students to interact with artists. One of KeMCo’s missions is to make artworks connect with students, and it is with this in mind that the two contemporary artists’ commissioned work was realized. From this point of view, it was a great pleasure to see the commissioned work of two contemporary artists presented at the preview. (text=Shiho Hasegawa)



Activities



Preview/ Commissioned by KeMCo 2020



教育 | KeMCo講座

「ミュージアムとコモンズ:オブジェクトとのインタラクション:オブジェクトを読む、語る、つくる」

(2020年度秋学期)

講師 本間友(専任講師/慶應義塾大学アート・センター所員)
松谷芙美(専任講師/慶應義塾大学アート・センター所員)
宮北剛己(特任助教/DMC総合研究センター研究員)
渡部葉子(副機構長/慶應義塾大学アート・センター教授)

ゲスト 松田隆美(機構長/文学部教授)
佐々木孝浩(兼任所員/慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長・教授)
重野寛(副機構長/理工学部教授)

概要

2020年度秋学期に開講したKeMCo講座は、様々な専門領域において、オブジェクトを核とした学びの提供を試みた。圧倒的な情報量を持つ作品を前に、様々な専攻の学生と教員が対話することは、お互いにとって刺激的な体験となっている。

本講義は、オブジェクト・ベースト・ラーニング(以下OBL)の初の試みであったにも関わらず、残念ながら新型コロナウイルス感染防止のためにオンラインでの実施になった。そのため、美術作品ではなく、学生の身近にあるオブジェクト(今回はコップ)を対象とすることになったが、学生とオブジェクトの接点をいかに創出するかが、OBLにおいて重要であることに気付かされる結果となった。かえて、「美術作品とは何か」という問いを、体験を通じて学ぶ機会となったと考えている。

一方で、いくつかの講義では、オンラインで、美術作品や貴重書を教材として利用した。デジタルでどこまでアナログの質感を伝えられるのかを試みる貴重な機会ともなり、デジタルならではの可能性を感じたことも確かである。また、事前にビデオ撮影をしたことで、通常の授業よりも効率的に関連資料を紹介できるといった利点もあった。しかし、美術作品においては、素材や形状と、造形表現が深く結びついていることもあり、オンラインに合わせて、作品に実際に接する機会も持てれば、より刺激的な講座となるだろう。

以上のように、初年度、またコロナ禍ということもあり、さまざまな対応を迫られたが、各テーマ(オブジェクト・ベースト・ラーニング、古典を読み解く、デジタル・オブジェクトと実空間)を網羅できたものと思う。ただ、オムニバス形式であることに加えて、受講生の前提知識・スキルも様々であることから、全体的に「広く浅い」内容にとどまってしまう、また、まとまりを欠いた印象がある。次年度は、より一貫性を持った内容に改善し、また、希望者には実習・演習に類する課外活動を提供することも検討したい。

(担当各者からの報告より:編=松谷、本間)

Education | KeMCo Course

“Museum and Commons: Interacting with Object: Reading, Narrating, and Creating Cultural Objects” (AY 2020 Fall Semester)

Lecturers

Yu Homma (Senior Assistant Professor/ Research Fellow, Keio University Art Center)
Fumi Matsuya (Senior Assistant Professor/ Research Fellow, Keio University Art Center)
Goki Miyakita (Project Assistant Professor/ Researcher, Institute for Digital Media and Content)
Yohko Watanabe (Vice Director/ Professor, Keio University Art Center)

Guests

Takami Matsuda (Director/ Professor, Faculty of Letters)
Takahiro Sasaki (Research Fellow/ Chair and Professor, Keio Institute of Oriental Classics)
Hiroshi Shigeno (Vice Director/ Professor, Faculty of Science and Technology)

Overview

The KeMCo course, which was launched in the fall semester of 2020, attempted to provide learning with objects as its core in a variety of specialist areas. The dialogue between students and lecturers from various majors in front of works/objects with an overwhelming amount of information has been a stimulating experience for both parties.

Even though this lecture course was the first attempt at Object-based Learning (OBL), unfortunately, it was conducted online to prevent the spread of the COVID-19. This meant that we had to use an object familiar to the students (in this case, a cup) rather than artworks, but this reminded us of the importance of creating contact points between students and objects in OBL. We think it was an opportunity to learn through experience the question "what is a work of art".

On the other hand, in some lectures, we used artworks and rare books as teaching materials in the lectures. This was a valuable opportunity for us to see how far we could go in conveying analogue textures in digital form, and we certainly felt the potential of digital technology. We also had the advantage of being able to introduce the relevant materials more efficiently than in a normal class by preparing videos in advance. However, it would have been more stimulating if we could have had the opportunity to see the real works at the same time online class, as there is a deep connection between the materials and shapes used in artworks and their expression of figures.

As mentioned above, in the first year of the course and because of the COVID-19 pandemic, we had to deal with a variety of issues, but we were able to cover all the themes (object-based learning, reading the classics, digital objects and physical space). However, due to the omnibus style of the lecture and the varying prerequisite knowledge and skills of the students, the content might be generally "wide and shallow" and lacked coherence. In the next year, we would like to improve the content to be more consistent, and also to consider offering extracurricular activities similar to practical training and exercises to those who wish to participate in.

(From the reports of all lecturers: edit=Fumi Matsuya and Yu Homma)

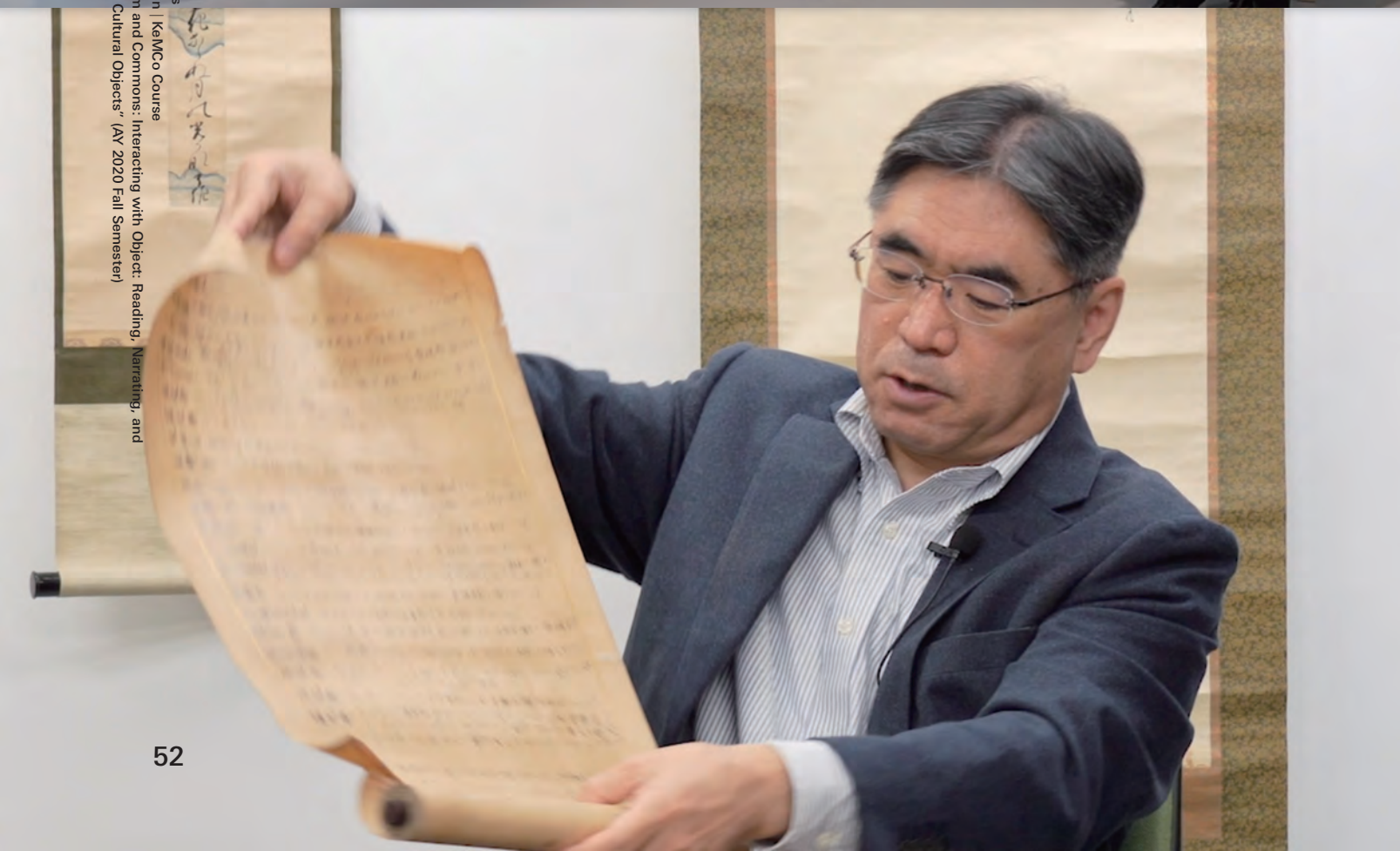


2020
Keio Museum Commons

Activities

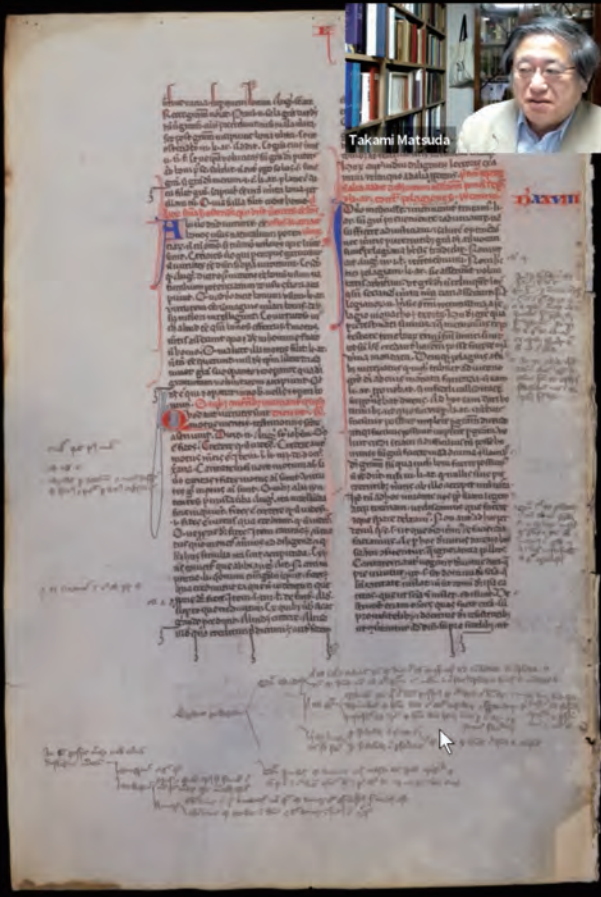
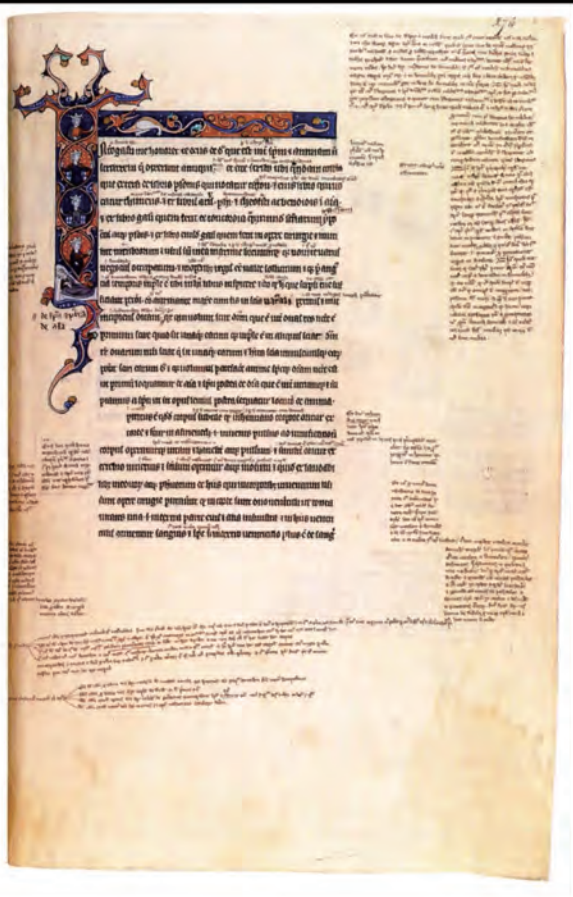
Education | KeMCo Course

"Keio Museum Commons: Interacting with Object: Reading, Narrating, and
Experiencing Cultural Objects" (AY 2020 Fall Semester)



中世の教科書による読者の書

読者が読者である、基本的に「面目な」読書のパラテキスト

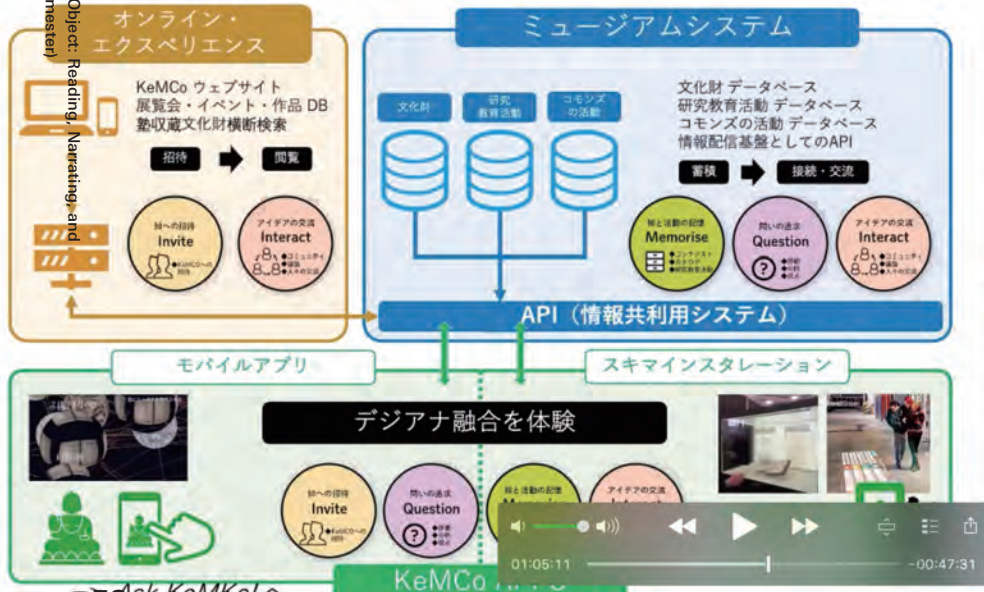


Takumi Matsuda



Activities
Education | KeMCo Course
"Museum and Commons: Creating Cultural Objects" (AY 2020 Fall Semester)

eMCoデジタルデータ基盤



Hiroshi Shigeno

53 Ask KoMCo! ~

KeMCo

KeMCoデジタル×アナログ・プロジェクト&サポート 2020

KeMCoデジタル・アナログ融合プロジェクトでは、デジタルアーカイブやミュージアムシステム、KeMCo Studl/Oの整備に加えて、実空間とデジタル空間を横断した「鑑賞体験」を企画・創出している。本年度は、以下の内容を実施した。

キャンパス・カルチャーウォーク 360°

- 慶應義塾のキャンパスに存在する文化財を360°画像でオンライン公開。今回は三田キャンパスを取り上げ、三田演説館をはじめとする歴史的建築物や彫刻・絵画といった芸術作品を360度パノラマ画像と解説テキストで紹介した。
- URL: <https://kemco.keio.ac.jp/facilities/digital-tools/mita-campus-360/>

オンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」

- 慶應義塾が所蔵する美術、考古、歴史、貴重書など様々なコレクションから57点が出品されたオンライン展覧会。デジタル空間に仮想の部屋(Exhibition RoomX)をオープンし、「人間交際」をテーマに展示を構成した。会場には、国際規格IIIFに対応した高精細の作品画像や担当者書き下ろしの作品解説、コメントリ動画等を多層的に展開。
- URL: <https://roomx.kemco.keio.ac.jp/>

デジタル展示「2020年度センチュリー文化財団寄託品展覧会『文人の書』」

- 実空間で行われた展覧会のデジタル展示。展覧会会期中に同時開催され、高精細画像やデジタル展示用書き下ろされた作品解説に加えて、展示室全体の3Dビューを制作・公開した。
- URL: <https://studio.kemco.keio.ac.jp/exhibition/shido2020/>

日吉図書館バーチャルツアー

- モダニズム建築家、槇文彦によって設計された日吉図書館の3D化。日吉図書館の館内をオンラインで探索できる「日吉図書館バーチャルツアー」の360度カメラ撮影を学生メンバー(通称KeMCoM:ケムコム)とともにに行った。
- URL: <https://www.lib.keio.ac.jp/hiyoshi/about/hiyoshiVR.html>

また詳細は割愛するが、上記のほかにも、慶應義塾大学アート・センターが主催する展覧会のギャラリートーク配信など、慶應義塾で実施される文化財に関わるイベントの映像撮影やオンライン配信を支援した。

(記=宮北)

2020年度活動一覧

日付／期間	タイトル	主催／KeMCo担当	サポート内容	URL
2020年				
6月17日	〔企画〕 キャンパス・カルチャーウォーク 360°	主催：慶應義塾ミュージアム・コモンズ	・360° 画像撮影 ・編集等	https://kemco.keio.ac.jp/facilities/digital-tools/mita-campus-360/
7月13日	〔サポート〕 オンライン・ギャラリートーク 「河口龍夫 鯨呼吸する視線」	主催：「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト実行委員会、慶應義塾大学アート・センター 技術提供：慶應義塾ミュージアム・コモンズ	・撮影およびライブ配信	http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/online-gallery-talk/
8月17日－ 10月30日	〔サポート〕 SHOW-CASE project No. 4 河口龍夫 鯨呼吸する視線	主催：慶應義塾大学アート・センター	・記録撮影（動画） ・展示会場3Dビュー撮影 ・編集等	http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/scp4-lucent-case/
10月26日－ 2021年2月28日	〔企画〕 オンライン展覧会 「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」	主催：慶應義塾 共催：文学部美学美術史学専攻、文学部民俗学考古学専攻、文学部古文書室、三田メディアセンター、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、慶應義塾福澤研究センター、慶應義塾大学アート・センター 運営：慶應義塾ミュージアム・コモンズ	・オンライン展覧会システムの構築 ・編集 ・運営等	https://roomx.kemco.keio.ac.jp/
11月9日－ 12月31日	〔企画／サポート〕 2020年度センチュリー文化財団寄託品 展覧会「文人の書」（デジタル展示）	主催：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾図書館 協力：慶應義塾ミュージアム・コモンズ	・デジタル展示会場のデザイン ・制作 ・オンラインギャラリートーク撮影 ・展示会場3Dビュー撮影 ・編集等	http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/century2020/
2021				
3月15日	〔企画／サポート〕 日吉図書館バーチャルツアー	企画：日吉メディアセンター、慶應義塾ミュージアム・コモンズ	・図書館内3Dビュー撮影 ・編集等 ・動画撮影（予定）	https://www.lib.keio.ac.jp/hiyoshi/about/hiyoshiVR.html

KeMCo Digital x Analogue Project & Support 2020

As part of the KeMCo Digital x Analogue project, besides developing the digital archive, museum systems and the KeMCo Studio, we support and coordinate a variety of arts and cultural activities to make them accessible in both real and digital spaces. This year, the below events took place.

Campus Culture Walk 360°

- Cultural assets (mainly architecture) at Keio University are shared online as 360° images. This time we focus on Mita Campus and produce 360° panoramic images and explanatory texts which introduces objects of art as varied as historical buildings (such as the Mita Public Speaking Hall), sculptures, and paintings.
- URL: <https://kemco.keio.ac.jp/facilities/digital-tools/mita-campus-360/>

Online exhibition “Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)”

- A fully-online exhibition of 57 pieces from various collections, including artworks, archeological artefacts, historical items, and rare books in the holdings of Keio University. A virtual exhibition space called RoomX was opened to host an exhibit on the theme “Jinkan Kosai (Society).” At the venue, high-definition (artwork) images conforming to IIIF international standards, commentaries, as well as explanatory videos were created and shared in various formats.
- URL: <https://roomx.kemco.keio.ac.jp/>

Digital Exhibition of Treasures from Century Cultural Foundation 2020: “Writings of the Literati”

- An online exhibition of the Exhibition of Treasures from Century Cultural Foundation 2020 held in a real-world space. This was held to run in parallel with, and over the same period as, the physical exhibition, with a 3D view of the entire exhibition room in addition to high-definition images and commentaries on pieces (newly written for the digital exhibition).
- URL: <https://studio.kemco.keio.ac.jp/exhibition/shido2020/>

The Hiyoshi Library VR Tour

- A digital 3D version of the Hiyoshi Library, which was designed by the modernist architect Fumihiko Maki. Together with the student members (known as KeMCoM), we were in charge of the 360° camera shooting for the “Hiyoshi Library VR Tour,” which allows users to explore the Hiyoshi Library online.
- URL: <https://www.lib.keio.ac.jp/en/hiyoshi/about/hiyoshiVR.html>

In addition to the above activities, we supported the shooting of video and online distribution of cultural events held at Keio University, although we will not go into the details here. e.g., exhibitions and events hosted by Keio University Art Center. (text=Goki Miyakita)

AY2020 All Activities

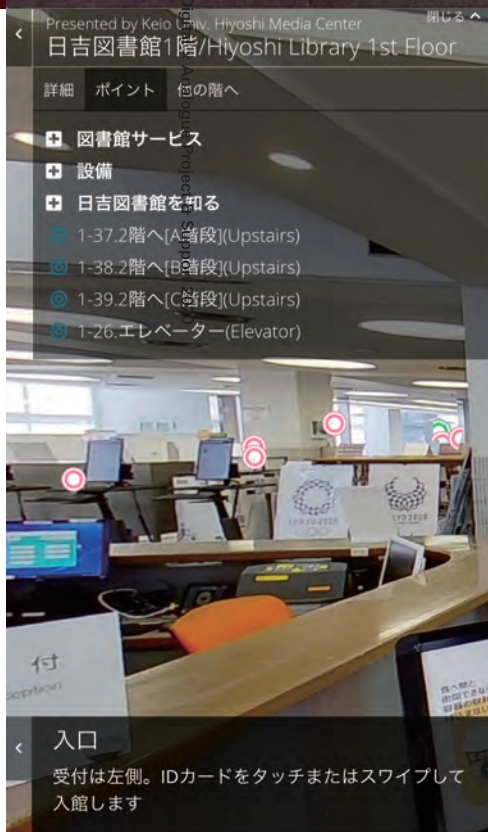
Term	Title	Organizer/ Role of KeMCo	KeMCo Activities	URL
2020				
June 17	[planning] Campus Culture Walk 360°	Organizer: Keio Museum Commons	•Photographing 360° images of Mita campus and editing	https://kemco.keio.ac.jp/facilities/digital-tools/mita-campus-360/
July 13	[support] Online Gallery Talk “Tatsuo Kawaguchi Gaze Breathing via Branchial Respiration”	Organizer: “Cultural Narrative of a City” project executive committee, Keio University Art Center Technology provision: Keio Museum Commons	•Shooting and live streaming	http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/online-gallery-talk/
August 17– October 30	[support] SHOW-CASE project No.4 Tatsuo a Gaze Breathing via Branchial Respiration	Organizer: Keio University Art Center Cooperation: Shigeru Yokota Gallery	•Recording the exhibition (video) •Photographing 3D view of the exhibition, editing, and others	http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/scp4-lucent-case/
October 26– February 28, 2021	[planning] Online exhibition “Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)”	Host: Keio University Cohost: Faculty of Letters Department of Aesthetics and Science of Arts, Faculty of Letters Department of Archaeology and Ethnology, Komonjoshitsu, Keio University Mita Media Center, Institute of Oriental Classics (Shido Bunko), Fukuzawa Memorial Center for Modern Japanese Studies, Keio University Art Center Management: Keio Museum Commons	•System structure, editing, and management of the online exhibition	https://roomx.kemco.keio.ac.jp/
November 9– December 31	[planning/support] Exhibition of Treasures from Century Cultural Foundation 2020 “Writings of the Literati”	Organizers: Keio University Institute of Oriental Classics (Shido Bunko), Keio University Art Center, Keio University Mita Media Center Cooperation: Keio Museum Commons	•Design and construction of the digital exhibition •Shooting online gallery talks •Photographing 3D view of the exhibition, editing, and others	http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/century2020/
2021				
March 15–	[planning/support] The Hiyoshi Library VR Tour	Host: Hiyoshi Media Center, Keio Museum Commons Technology provision: Keio Museum Commons	•Photographing 3D view of the Hiyoshi Library, editing, and others •Recording the library (video) [to be arranged]	https://www.lib.keio.ac.jp/en/hiyoshi/about/hiyoshiVR.html



キャンパス・カルチャーウォーク 360°
Campus Culture Walk 360°



オンライン展覧会 | Keio Exhibition RoomX: 人間交際
Online Exhibition "Keio Exhibition RoomX: Jinkan Kosai (Society)"





受入作品・資料
New Acquisitons

刊行物
Publication

図書資料統計
Books Data Statistics

受入作品・資料 | New Acquisitions

センチュリー赤尾コレクションおよび蔵書の移管作業

2021年3月、センチュリー文化財団より新たに美術作品585件と、また作品に付随する資料として、写真資料、関連資料および、センチュリーミュージアム蔵書6,803件の寄贈を受けた。また、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫に寄託されていた作品の一部を、慶應義塾ミュージアム・コモンズの収蔵庫に移送した。

美術作品の移管作業を安全に完了するため、慶應義塾ミュージアム・コモンズでは、収蔵場所の移動が必要な約1,100点を中心に、美術作品の状態確認を行い、それらの情報を、作品管理データベースに登録した。加えて、作品を安全かつ確実に移送、配架するために、作品に添付した収蔵札にバーコードを添付し、日本通運と日通オフィスファシリティーズの協働による個別認証システムを活用して管理を行った。これは図書館等での実績のあるシステムであったが、美術館では初の試みとのことである。梱包作業時に、バーコードをスキャンする作業が発生する代わりに、梱包漏れや業務進行状況を客観的に管理できる。また、作品を配架した棚の番号を作品管理データベースに登録する際の自動化が可能だ。今後は、このシステムを応用し、データベースと連動させ、作品の出納業務に活用することを検討している。（記＝松谷）



Transportation Work for the Century Akao Collection and Related Books

In March 2021, we newly received 585 items of artworks from the Century Cultural Foundation, along with photographs, related materials and collection of 6,803 books. In addition, some of the works entrusted at the Institute of Oriental Classics (Shido Bunko) were transferred to the Keio Museum Commons storage.

To ensure the safe transportation of artworks, we confirmed the conditions of pieces, and registered the information in a collection management database, in particular the approximately 1,100 pieces set to be transferred from their original locations. In addition, to make sure the safe and reliable transportation and processing of the items, a barcode was attached to the storage tags, and these were managed using an individual authentication system supplied by Nippon Express Co., Ltd. and Nittsu Office Facilities. This is a proven system used by libraries and similar facilities, but was the first such application at a museum. In lieu of scanning barcodes during packing work, it is possible to objectively manage any omissions in packaging, as well as the status of the packing work. In addition, it allows automated registration of shelf numbers for items in the collection management database. We are considering using and linking this system with databases to manage location information of artworks. (text=Fumi Matsuya)



センチュリー赤尾コレクション

2021年3月、センチュリー文化財団より、以下の通り美術作品の寄贈を受けた。寄託品1,740件に、新規寄贈品585件を加え、合計件数は2,325件となる。これらは、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫および慶應義塾ミュージアム・コモンズの収蔵庫で、共同で保存管理する。

Donation of the Century Akao Collection

In March 2021, ownership of the following works of art was transferred to Keio University by the Century Cultural Foundation. The total number of items transferred was 2,325, which included 585 newly consigned items in addition to the 1,740 items that had already been entrusted. These will be jointly conserved and managed by the Keio University Institute of Oriental Classics (Shido Bunko) and Keio Museum Commons.



センチュリー赤尾コレクション一覧リスト

項目No. Category No.	項目 Category	サブ項目 Subcategory		件数 Number of Items	合計 Total
I	書跡 Calligraphies	写経 Sutra Manuscripts		157	Subtotal: 1,392
		古筆 <i>Kohitsu</i> (Ancient Calligraphies)		59	
		墨跡 <i>Bokuseki</i> (Zen Calligraphies)		71	
		書状 Letters		296	
		懐紙 <i>Waka</i> Poem Sheets		272	
		短冊 <i>Tanzaku</i> (Calligraphed Poems on Paper Strips)		260	
		和様 <i>Wayo</i> (Japanese-style Calligraphies)		138	
		唐様 <i>Karayo</i> (Chinese-style Calligraphies)		91	
		典籍 Books		48	
II	絵画 Paintings	仏画 Buddhist Paintings		81	Subtotal: 281
		肖像 Portraits	天神 Image of Tenjin	33	
			人麿 Image of Hitomaro	14	
			歌仙 Immortal Famous Poets	19	
			その他画像 Others	42	
		絵巻 Picture Scrolls		19	
		画賛 <i>Gasan</i> (Paintings)		24	
		その他 Others		49	
		III	漆工 Lacquerwares	文箱・短冊箱 <i>Fubako</i> (Document Boxes)	
硯箱 Writing Boxes				28	
経箱・経櫃 Sutra Boxes and Sutra Chests				4	
筆 Writing Brushes				1	
鏡箱 Mirror Cases (<i>Kagami-bako</i>)				15	
その他漆工 Others				15	
IV	金工 Metal Works and Crafts	経筒 Sutra Cases		30	Subtotal: 487
		水滴 Water Droppers		55	
		古鏡 Mirrors		346	
		仏具 Buddhist Altars		40	
		印章 Seals		2	
		その他金工 Others		14	
V	石造 Stones	硯 Ink Stones		9	Subtotal: 9
VI	彫刻 Sculptures	木彫 Wood Sculptures		17	Subtotal: 52
		神像 Image of Shintō Deities		11	
		金銅懸仏 Gilt Bronze Images of Buddha, a Hanging Plates		11	
		金銅仏 Gilt Bronze Buddhist Sculptures		8	
		鉄仏 Cast Iron Buddhist Statues		2	
		石彫 Stone Sculptures		3	
					Total: 2,325

刊行物 | Publication

『慶應義塾ミュージアム・コモンズ年報 0号 2019/2020』

62頁、2020年7月31日発行

編集・発行=慶應義塾ミュージアム・コモンズ

[オンライン公開:<https://kemco.keio.ac.jp/all-post/20200813/>]

Annual Report No.0 2019/2020 Keio Museum Commons

62 pages

Published on July 31, 2020

Edited and Published by Keio Museum Commons

[published online: <https://kemco.keio.ac.jp/all-post/20200813/>]



『慶應義塾名品撰』

216頁、2020年10月30日発行

発行=慶應義塾

編集=慶應義塾ミュージアム・コモンズ

One Hundred Treasures of the Keio Collections

216 pages

Published on October 30, 2020

Published by Keio University

Edited by Keio Museum Commons



2019年度より出版準備を進めてきた『慶應義塾名品撰』が、2020年10月に上梓した。

本書は、160年を超える歴史のなかで義塾が集積してきた、多様な学問領域にまたがる文化財の数々を紹介している。考古学資料、古代から現代にいたるまでの絵画・彫刻などの美術作品、各時代を反映する建築物、東洋・西洋の貴重書、そしてコレクションとしての蔵書・史料群…といった作品や資料について、学部・研究科の教職員ら専門家の協力を得て、豊富な図版と解説・コラムを掲載。さらに、作品の来歴、義塾で開催した展覧会の情報、作品修復についても触れることで、人的交流のなかで形成されたコレクションの在りようと、それらが現在までどのように継承・活用され続けているのかを眺め見ることのできる構成を目指した。

編集部をKeMCoに置き、大学の学部や研究所、一貫教育校、図書館など関係各部署の協力を得ながら、掲載作品の調査・選定、作品の撮影などが時間をかけておこなわれた。KeMCoの担う役割のひとつとして、ひろく義塾の所蔵する文化財を活用するハブとなることが掲げられるが、本書の編集作業はそうした側面をいち早く示すケースとなった。（記＝長谷川、松谷）

One Hundred Treasures of the Keio Collections was published in October 2020, the preparations for which had been ongoing since the 2019 academic year.

This book introduces many cultural assets spanning various academic fields, which have been collected and accumulated at Keio over its 160-year history. The treasures featured in this book include archaeological materials, artworks such as paintings and sculptures from antiquity to modern times, architectures of each era, western and eastern rare books and rich collections of books and historical materials. Plenty of photographs, explanations, and essays on these works are provided thanks to the cooperation of experts in each field, who are researchers, staffs and faculties of undergraduate/graduate schools and research centers. In addition, by including the provenance of the pieces, information on exhibitions held by Keio University, and a column that touch upon an aspect of the restoration of artworks, we aimed to offer a glimpse into the assemblage of a collection through human interactions, showing how these pieces have been passed on and continue to be active today.

KeMCo carried out the editing, with time dedicated to completing the survey, selection, and photography of the included works with the cooperation of related departments, such as those in undergraduate faculties and graduate schools, research centers and institutes, affiliated schools, and the library. One of the roles played by KeMCo will be as a hub for the deployment of cultural assets scattered throughout the Keio University, and the editorial work of this book has been a pioneering illustration of this mission. (text=Shiho Hasegawa and Fumi Matsuya)





図書資料統計 | Books Data Statistics

	本年度登録数 Registration (this year)	総所蔵数 Total
和書(冊) Japanese Books	90	98
洋書(冊) Foreign Books	5	5
逐次刊行物(タイトル数) Serials (number of titles)	6	6
AV資料 Audio Video Materials	0	0

Books Data Statistics

会議
Meetings

人事
Personnel Changes

所員・職員名簿
Staff

慶應義塾ミュージアム・コモンズ規程
Keio Museum Commons Rules

慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料収集・保管方針
慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料収集・保管及び展示等業務実施要領
慶應義塾ミュージアム・コモンズ寄贈寄託芸術資料取扱要領
慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料貸出要綱
Keio Museum Commons Regulations

会議

2020年

8月14日(金)第1回評議会(持ち回り審議)

〔審議・報告事項〕

「2019年度決算」審議。

2020年度の活動・開館までの進捗状況について報告。

11月19日(木)運営委員会

〔審議・報告・懇談事項〕

「2021年度事業計画」「所員継続の確認」審議。

開館までの各ワーキング・グループ(建築、展示、収蔵、デジタル・アナログ融合プロジェクト、教育・研究連携、その他)の進捗、専任所員の塾内兼務について報告。

東別館実習室、福澤諭吉諭吉記念慶應義塾史展示館等について懇談。

12月22日(火)第2回評議会(持ち回り審議)

〔審議・報告事項〕

「2021年度事業計画および予算」「ミュージアム・コモンズ所員の推薦」「ミュージアム・コモンズ有期教員の任用(継続)」「芸術資料関連内規の制定」審議。

2020年度の活動・開館までの進捗状況について報告。

Meetings

2020

The 1st Keio Museum Commons Council Meeting on Friday, August 14 (rotational deliberation)

[Matters for Deliberation and Reporting]

Deliberations on the “AY 2019 Financial Results.”

Report on AY 2020 activities and the state of progress until the opening.

Steering Committee Meeting on Thursday, November 19

[Matters for Deliberation, Reporting, and Discussion]

Deliberations on the “AY 2021 Activity Plan” and “Confirmation of Continuing Research Fellow.”

Reports on the progress of each working group (architecture, exhibitions, collections, digital-analog fusion projects, educational and research collaborations, others), and concurrent appointment of Keio personnel as senior assistant professors.

Discussions on the East Annex workshop rooms, the Fukuzawa Yukichi Memorial Keio History Museum, etc.

The 2nd Keio Museum Commons Council Meeting on Tuesday, December 22 (rotational deliberation)

[Matters for Deliberation and Reporting]

Deliberations on the “AY 2021 Activity Plan and Budget,” “Recommendations of the Keio Museum Commons Research Fellow,” “Appointment of Non-tenured Faculty Members of the Keio Museum Commons (continuation),” and “Establishment of Internal Rules Related to Art Materials.”

Report on AY 2020 activities and the state of progress until the opening.

人事

就任	(2020年4月1日)		
	専任所員／特任助教	宮北	剛己
	兼担所員	大川	恵子
	(2020年5月1日)		
	副機構長	重野	寛
	兼任所員	長谷川	紫穂
	(2020年7月1日)		
	事務長	竹越	功
	事務員	町出	美佳
	(2020年11月1日)		
	課長補佐	倉持	隆
	(2021年1月1日)		
	評議員	中島	隆信
退任	(2020年7月1日)		
	事務長	黒田	修生
	(2020年11月1日)		
	課長	松本	和子

Personnel Changes

New assignment (As of April 1, 2020)

Project Assistant Professor

Miyakita, Goki

Research Fellow Okawa, Keiko

(As of May 1, 2020)

Vice Director Shigeno, Hiroshi

Research Fellow Hasegawa, Shiho

(As of July 1, 2020)

Administrative Director

Takekoshi, Isao

Administrative Staff

Machide, Mika

(As of November 1, 2020)

Deputy Administrative Manager

Kuramochi, Takashi

(As of January 1, 2021)

Councillor Nakajima, Takanobu

Retirement

(As of July 1, 2020)

Administrative Director

Kuroda, Nobuo

(As of November 1, 2020)

Administrative Manager

Matsumoto, Kazuko

所員・職員名簿

2021年3月31日現在

機構長	松田 隆美*		
副機構長	渡部 葉子*	重野 寛*	
担当常任理事	青山藤詞郎*		
評議員	松浦 良充	池田 幸弘	
	岩谷 十郎	岡本 大輔	
	天谷 雅行	岡田 英史	
	土屋 大洋	脇田 玲	
	武田 祐子	三澤日出巳	
	倉田 敬子	中妻 照雄	
	岡原 正幸	中島 隆信	
	岡野 栄之	余田 拓郎	
	加藤 文俊	北居 功	
	武林 亨	西村 秀和	
	稲蔭 正彦	古田 幹	
	高橋 美樹	鈴木千佳子	
	尾上 義和	荒川 昭	
	井上 逸兵	杉浦 重成	
	井奥 成彦	須田 伸一	
	中村 修		
専任所員	本間 友	松谷 芙美	宮北 剛己
兼担所員	安藤 広道	後藤 文子	
	内藤 正人*	山口 徹	
	金子 晋丈	大川 恵子	
	佐々木孝浩*	堀川 貴司	
	西澤 直子	都倉 武之	
兼任所員	長谷川紫穂		
学芸員補	小松 百華		
事務長	竹越 功*		
課長補佐	倉持 隆		
職員	町出 美佳	久保山彩華	
運営補助	塾長室(黒田 修生、小西麻貴子)		

*は評議員を兼ねる

Staff

As of March 31, 2021

Director	Matsuda, Takami *	
Vice Director	Watanabe, Yohko *	Shigeno, Hiroshi *
Vice-President for Keio Museum Commons	Aoyama, Tojiro*	
Councillors	Matsuura, Yoshimitsu	Ikeda, Yukihiro
	Iwatani, Juro	Okamoto, Daisuke
	Amagai, Masayuki	Okada, Eiji
	Tsuchiya, Motohiro	Wakita, Akira
	Takeda, Yuko	Misawa, Hidemi
	Kurata, Keiko	Nakatsuma, Teruo
	Okahara, Masayuki	Nakajima, Takanobu
	Okano, Hideyuki	Yoda, Takuro
	Kato, Fumitoshi	Kitai, Isao
	Takebayashi, Toru	Nishimura, Hidekazu
	Inakage, Masahiko	Furuta, Mikio
	Takahashi, Miki	Suzuki, Chikako
	Onoe, Yoshikazu	Arakawa, Akira
	Inoue, Ippei	Sugiura, Shigenari
	Ioku, Shigehiko	Suda, Shin'ichi
	Nakamura, Osamu	
Senior Assistant Professors	Homma, Yu	Matsuya, Fumi
Project Assistant Professor	Miyakita, Goki	
Research Fellow	Ando, Hiromichi	Goto, Fumiko
	Naito, Masato *	Yamaguchi, Toru
	Kaneko, Kunitake	Okawa, Keiko
	Sasaki, Takahiro *	Horikawa, Takashi
	Nishizawa, Naoko	Tokura, Takeyuki
	Hasegawa, Shiho	
Curatorial Staff	Komatsu, Momoka	
Administrative Director	Takekoshi, Isao *	
Administrative Deputy Manager	Kuramochi, Takashi	
Administrative Staff	Machide, Mika	Kuboyama, Saika
Administrative Assistants	Office of the President (Kuroda, Nobuo/ Konishi, Makiko)	

*Additional post of Councillor

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 規程

Keio Museum Commons
Rules

2019年2月8日
制定

(設置)

第1条 慶應義塾大学(以下、「大学」という。)に慶應義塾ミュージアム・コモンズ(Keio Museum Commons, 以下、「KeMCo」という。)を置く。

(目的)

第2条 KeMCoは、義塾における学術資料に関わる文化活動の中核機構として、義塾の教育・研究・医療に資する資料・情報を収集・整備・保存し、塾内外にこれを広く効果的に提供することによって、義塾の教育・研究・医療の発展に寄与し、広く社会に貢献することを目的とする。

(業務)

第3条 KeMCoは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- 1 学術資料に関わる教育、研究活動
- 2 学術資料の収集、整備、保存活動
- 3 学術資料の展示、公開、普及活動
- 4 以上の活動を行う諸組織との調整・連携
- 5 その他、目的達成のために必要な業務

(組織)

第4条 ① KeMCoに次の教職員を置く。

- 1 機構長 1名
- 2 副機構長 若干名
- 3 所員 若干名
- 4 専門員 若干名
- 5 事務長 1名
- 6 職員 若干名

② 機構長は、KeMCoを代表しその業務を統括する。

③ 副機構長は、機構長を補佐し、必要に応じてその職務を代行する。

④ 所員は、専任所員、兼担所員または兼任所員とする。専任所員は原則として学芸員資格とそれに基づく実務経験を有する教員とし、KeMCoのキュレーターを兼務する。兼担所員または兼任所員は機構長の指示に従い職務を行う。

⑤ 専門員は、KeMCoの事業目的達成のための職務を行う。

⑥ KeMCoは、顧問を置くことができる。

⑦ 顧問は、KeMCoの円滑な運営のために必要な助言を行う。

⑧ KeMCoは、訪問学者、特任教員・研究員を置くことができる。

⑨ 事務長は、KeMCoの事務を統括する。

⑩ 職員は、事務長の指示により必要な職務を行う。

(KeMCo評議会)

第5条 ① KeMCoにKeMCo評議会(以下、「評議会」という。)を置く。評議会は次の者をもって構成する。

- 1 機構長
- 2 副機構長
- 3 担当常任理事
- 4 大学各学部長、大学大学院各研究科委員長および一貫教育校各校長
- 5 大学附属研究所および大学附属施設の長のうち機構長が推薦した者 若干名
- 6 メディアセンター所長
- 7 インフォメーションテクノロジーセンター所長
- 8 事務長
- 9 その他機構長が必要と認めた者

② 評議会は毎年2回定期的に機構長が招集し、その議長となる。ただし、必要に応じて臨時に招集することができる。

③ 評議会はKeMCoの諮問機関として、次の事項を審議する。

- 1 KeMCoの運営の基本方針に関する事項
- 2 KeMCoの予算および決算に関する事項
- 3 塾内の諸施設の文化活動の運営管理に関する事項
- 4 KeMCoの運営に必要なその他の事項

④ 第1項第9号に定める委員の任期は2年とし、重任を妨げない。ただし、任期途中で退任した場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(KeMCo運営委員会)

第6条 ① KeMCoに運営委員会を置く。運営委員会は、機構長がその職務を円滑に行うため、必要に応じて招集し、その議長となる。運営委員会は、次の者をもって構成する。

- 1 機構長
- 2 副機構長
- 3 所員
- 4 事務長
- 5 その他機構長が必要と認めた者

② 運営委員会はKeMCoに関する次の事項を審議する。

- 1 KeMCoの事業計画の策定
- 2 KeMCoの事業計画の実施に関わる諸事項

③ 運営委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(教職員の任免)

第7条 ① KeMCoの教職員の任免は、次の各号による。

- 1 機構長は、大学評議会の議を経て塾長が任命する。

2 副機構長は、機構長の推薦に基づき塾長が任命する。

3 所員は、評議会の推薦に基づき塾長が任命する。ただし、専任所員は、評議会の推薦に基づき、大学評議会の議を経て塾長が任命する。

4 顧問は、機構長の推薦に基づき、塾長が任命する。

5 専門員の任免は、「任免規程(就)(昭和27年3月31日制定)」の定めるところによる。

6 事務長および職員の任免は、「任免規程(就)(昭和27年3月31日制定)」の定めるところによる。

② 機構長および副機構長の任期は2年とし、重任を妨げない。ただし、任期の途中で退任した場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

③ 兼担所員および兼任所員の任期は2年とし、重任を妨げない。

④ 訪問学者、特任教員・研究員は、評議会の推薦に基づき、大学評議会の議を経て塾長が任命する。その任期は、「有期契約教員就業規則(平成27年2月6日制定)」の定めるところによる。

⑤ 顧問の任期は1年とし、重任を妨げない。
(経理)

第8条 KeMCoの経理は、「慶應義塾経理規程(昭和46年2月15日制定)」の定めるところによる。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の審議に基づき、大学評議会の議を経て塾長が決定する。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 芸術資料収集・保管方針

資料の収集は、以下の範囲において考える。

1. 義塾の教育・研究・医療に資する資料、情報に関わる資料
2. 慶應義塾ミュージアム・コモンズ（以下「KeMCo」）の事業および研究等に関連する資料
3. 博物館教育に資する資料
4. 慶應義塾に関連する芸術関係資料
5. 慶應義塾所蔵資料等でKeMCoでの収蔵が相応しいと判断される資料
6. 収蔵資料の調査・研究上必要とされる資料
7. その他、KeMCoで収蔵しない場合、当該資料に重篤な問題やき損が発生すると判断される芸術資料。（但し、この場合は寄託等を視野にいれ相応しい受入方法を検討するものとする。）

以上

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 芸術資料収集・保管及び 展示等業務実施要領

2021年1月1日

（趣旨）

第1条 この要領は、慶應義塾ミュージアム・コモンズ（Keio Museum Commons、以下「KeMCo」という。）のKeMCo規程第3条第2項および第3項に定める業務（以下「展示・収蔵等業務」という。）の実施について必要な事項を定めるものとする。

（用語の定義）

第2条 この要領において、芸術資料とは、KeMCoが収蔵し、又は収蔵しようとする芸術作品、アーカイヴ資料、その他芸術に関連する資料、図書等のことをいう。

（展示・収蔵等業務の内容）

第3条 KeMCoは、展示・収蔵等業務に関して、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 芸術資料の収集に関する業務
- (2) 芸術資料の整理、記録、保管等に関する業務
- (3) KeMCo展示スペース等における芸術資料の展示に関する業務

2 KeMCo展示スペースの運用に関しては別途これを定める

（芸術資料の情報の収集・調査）

第4条 KeMCoは、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料収集・保管方針（以下「収集方針」という。）に従い、KeMCoが収蔵の対象とする芸術資料に関する情報を積極的に収集し、その情報内容の確認等、収集・保管に際して必要とな

る事項について調査・折衝する。

（受贈等に係る業務）

第5条 KeMCoは、KeMCoに対する芸術資料の寄贈又は寄託（以下「寄贈等」という。）の申出があった場合において、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 寄贈等の申出に基づく芸術資料の調査・折衝
- (2) 寄贈寄託申請書の受領および受贈受託書の交付
- (3) その他、慶應義塾ミュージアム・コモンズ寄贈寄託芸術資料取扱要領に指示される寄贈等に必要とされる業務

（整理、記録及び保管等に係る業務）

第6条 KeMCoは、芸術資料の分類整理、記録及び保管に関して、次の業務を行うものとする。

- (1) 芸術資料の分類整理及び記録の作成
- (2) 芸術資料の保管
- (3) 芸術資料の記録の整理及び保管
- (4) 芸術資料の貸出し及び撮影許可

（芸術資料の定期診断・修復）

第7条 KeMCoは、芸術資料について、計画的に保存状態・破損状況等の診断をしなければならない。

2 KeMCoは、1の診断に基づき、必要に応じて適切な修復を行うものとする。

（芸術資料の貸出し及び掲載許可）

第8条 KeMCoは、KeMCoが所有する芸術資料等の第三者への貸出し及び掲載許可を行うことができる。

2 前項の実施に係わる貸出し及び掲載許可

の手続き等は、慶應義塾ミュージアム・コモンズ
芸術資料貸出要綱に基づき取り扱うものとする。

(芸術資料の展示に係る業務)

第9条 KeMCoは、第3条(3)に定める業務
に関し、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 展示芸術資料及び展示スペースの管理及
び保全
- (2) 展示及び展示替えに係わる調査、計画及
び実施
- (3) 芸術資料の借用及び返却に係わる業務

(職員及び職務)

第10条 展示・収蔵等業務には、KeMCo規程
第4条第3項に定める専任所員(以下「専任所員」
という。)があたる。

2 展示・収蔵等業務の実施上、特に必要があ
ると認めるとき、KeMCo機構長(以下「機構長」と
いう。)は、KeMCo所員以外に展示・収蔵等業務
への従事を命じることができる。

3 展示・収蔵等業務に従事する所員は、学芸
員資格を有する者とする。

(その他)

第11条 その他芸術資料の収集及び保管等
に関して、この要領に定めがない事項について
は、専任所員と機構長の協議の上定めるものと
する。

附 則

この要領は、2021年1月1日から施行する。

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 寄贈寄託芸術資料取扱要領

2021年1月1日

(目的)

第1条 この要領は、慶應義塾ミュージアム・コモンズ(Keio Museum Commons, 以下「KeMCo」という。)における芸術資料の寄贈寄託に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(受託)

第2条 芸術資料の所有者(以下「所有者」という。)から寄贈または寄託の申入れがあったときは、この要領の定めるところにより、KeMCoは、これを受贈または受託することができる。

2 受贈受託することができる芸術資料は、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料収集・保管方針に適合する資料とする。

(寄贈寄託申請書の提出)

第3条 所有者が芸術資料を寄贈寄託しようとするときは、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料寄贈寄託申請書(別記第1号様式。以下「寄贈寄託申請書」という。)をKeMCo機構長(以下「機構長」という。)へ提出することとする。

(了承)

第4条 機構長は、寄贈寄託申請書を受理し第2条第2項に適合する芸術資料であり寄贈寄託を適当と認めるときは、KeMCo評議会に諮問し、了承を得るものとする。また、機構長は受贈受託する資料に応じて、慶應義塾美術品管理運用委員会への諮問、担当理事との協議を行うことができる。

(受贈受託書の交付と受贈感謝状贈呈)

第5条 機構長は、第4条で了承された芸術資料を受贈受託するときは、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料受贈受託書(別記第2号様式。以下「受贈受託書」という。)を所有者へ交付する。

2 受贈に関しては、慶應義塾総務部へ報告し、慶應義塾機関紙上の寄付報告への記載及び塾長名の感謝状を贈呈することができる。

(受託期間)

第6条 受託期間は2年間とし、初回については受託書交付の日から3度目の3月31日までとする。ただし、特別の事情があるときは、機構長はこれを短縮することができる。

2 受託期間の終了に際して寄託終了の意志が寄託者から提示されない場合については、自動的に受託期間を更新するものとする。

(期間更新)

第7条 機構長は、寄託者の承諾を得て、受託期間を更新することができる。

2 寄託者は、寄託期間の更新を希望するときは、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料寄託期間更新申請書(別記第3号様式。以下「更新申請書」という。)を機構長へ提出することとする。

3 機構長は、更新申請書を受理し内容が適当と認めるときは、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料受託期間更新書(別記第4号様式。以下「受託更新書」という。)を寄託者へ交付する。

(返還)

第8条 寄託者は、寄託芸術資料の返還を受けようとするときは、原則として返還希望日の1か月前までに、慶應義塾ミュージアム・コモンズ寄託芸術資料返還請求書(別記第5号様式。以下「返還請求書」という。)を機構長へ提出することとする。

2 機構長は、返還請求書を受理し内容が適当

と認めるときは、当該寄託芸術資料を返還し、慶應義塾ミュージアム・コモンズ寄託芸術資料返還通知書(別記第6号様式)を寄託者へ交付する。

3 寄託者は、当該寄託芸術資料を受領するときは、慶應義塾ミュージアム・コモンズ寄託芸術資料受領書(別記第7号様式)を機構長へ提出することとする。

4 機構長は、慶應義塾の都合により寄託芸術資料を寄託者へ返還するときは、返還予定日の1か月前までに寄託者へ書面をもって通知することとし、寄託者は、返還予定日までにすみやかに当該寄託芸術資料の引渡しを受けるものとする。

(芸術資料の保管)

第9条 KeMCoは、KeMCoが収蔵する芸術資料と同様に、寄託芸術資料の分類整理及び記録の作成を行い、安全かつ良好な状態で保管しなければならない。

(芸術資料の展示等)

第10条 KeMCoは、寄託芸術資料について展示を行うことができる。

2 KeMCoは、寄託芸術資料について撮影等を行い、その結果を公表することができる。

3 KeMCoは、寄託芸術資料について、寄託者の承諾があった場合に限り、第三者への貸出し及び掲載許可を行うことができる。

(芸術資料の修復)

第11条 KeMCoは、寄託者の承諾を得た上で、寄託芸術資料の修復を行うことができる。

附 則

この要領は、2021年1月1日から施行する。

別記
第 1 号様式

慶應義塾ミュージアム・コモンスズ芸術資料寄託申請書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
資料の所在地	
寄託期間 *	受託された日から 年 月 日まで

*寄託の場合記入

上記について、慶應義塾ミュージアム・コモンスズ寄贈寄託芸術資料取扱要領
第 3 条により、慶應義塾ミュージアム・コモンスズへの 寄贈／寄託 を申請しま
す。

慶應義塾ミュージアム・コモンスズ 機構長 殿

年 月 日

住 所 :

電 話 :

氏 名 :

印

第 2 号様式

慶應義塾ミュージアム・コモンスズ芸術資料受贈受託書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
受託期間*	年 月 日から 年 月 日まで

*寄託の場合記入

上記について、慶應義塾ミュージアム・コモンスズ寄贈寄託芸術資料取扱要領
第 5 条により、慶應義塾ミュージアム・コモンスズへ 受贈／受託 しました。

様

年 月 日

慶應義塾ミュージアム・コモンスズ 機構長 印

第 3 号様式

慶應義塾ミュージアム・コモنز芸術資料寄託期間更新申請書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
寄託開始年月日	年 月 日
更新後の寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで

上記について、慶應義塾ミュージアム・コモنز寄贈寄託芸術資料取扱要領第7条第2項により、慶應義塾ミュージアム・コモنزへの寄託の期間更新を申請します。

慶應義塾ミュージアム・コモنز 機構長 殿

年 月 日 住 所 電 話 氏 名

印

第 4 号様式

慶應義塾ミュージアム・コモنز芸術資料受託期間更新書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
受託開始年月日	年 月 日
更新後の受託期間	年 月 日から 年 月 日まで

上記について、慶應義塾ミュージアム・コモنز寄贈寄託芸術資料取扱要領第7条第3項により、慶應義塾ミュージアム・コモنزへの受託期間を更新しました。

様

年 月 日

慶應義塾ミュージアム・コモنز 機構長 印

第5号様式

慶應義塾ミュージアム・コモنز寄託芸術資料返還請求書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
寄託開始年月日	年 月 日
直近の寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで
返還希望日	年 月 日

上記について、慶應義塾ミュージアム・コモنز寄贈寄託芸術資料取扱要領第8条第1項により、慶應義塾ミュージアム・コモنزへ寄託している美術資料の返還を請求します。

慶應義塾ミュージアム・コモنز 機構長 殿

年 月 日

住 所 ：

電 話 ：

氏 名 ：

印

第6号様式

慶應義塾ミュージアム・コモنز寄託芸術資料返還通知書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
寄託開始年月日	年 月 日
直近の寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで
返還日	年 月 日

上記について、慶應義塾ミュージアム・コモنز寄贈寄託芸術資料取扱要領第8条第2項により、慶應義塾ミュージアム・コモنزへ寄託している美術資料を返還します。

様

年 月 日

慶應義塾ミュージアム・コモنز 機構長 印

慶應義塾ミュージアム・コモنز寄託芸術資料受領書

作 者 名	
資 料 名	
種 別	
制 作 年	
技法・材質・寸法	
付 属 品	
寄託開始年月日	年 月 日
直近の寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで

* 受託書または直近の受託更新書を添付のこと。

上記について、本日、慶應義塾ミュージアム・コモنز寄贈寄託芸術資料取扱要領第 8 条第 3 項により受領しました。

慶應義塾ミュージアム・コモنز 機構長 殿

年 月 日

住 所 :

電 話 :

氏 名 : 印

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 芸術資料貸出要綱

2021年1月1日

(目的)

第1条 この要綱は、慶應義塾ミュージアム・コモンズ芸術資料収集・保管及び展示等業務実施要領第8条に基づき、慶應義塾ミュージアム・コモンズ(Keio Museum Commons, 以下「KeMCo」という。)で収蔵する芸術資料の貸出に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(貸出承認)

第2条 KeMCo機構長(以下「機構長」という。)は、次の場合に芸術資料の貸出を承認する。なお、第三者から寄託を受けた芸術資料については、寄託者の承諾があった場合に限る。

(1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館、同法第29条に規定する博物館に相当する施設、国立の図書館、図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館またはこれらに準ずる施設が申請する場合

(2) その他機構長が適当と認める場合

(貸出期間)

第3条 芸術資料の貸出期間は原則として90日以内とする。ただし、海外への貸出や国内の巡回展等、機構長が特に必要と認める場合はこの限りでない。

2 前項に規定する貸出期間は、当該芸術資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定する。

(貸出資料の制限)

第4条 貸出を承認する芸術資料の員数は原則として10点以内とし、それを越える場合、または全体の陳列予定作品のうち、貸出する芸術資料の員数が3割以上を占める場合には、別途協議する。

2 機構長は、前項の規定に該当する場合であっても、次の場合は貸出期間または貸出員数を制限し、貸出をしないものとする。

(1) KeMCoの業務に支障をきたす恐れのある場合

(2) 芸術資料の保存上、特に配慮を必要とする場合

(3) 著作権等を侵害する恐れのある場合

(4) その他貸出をすることが適当でないと認められる場合

3 機構長は、KeMCoの都合により必要がある場合は、芸術資料の貸出期間中であっても、当該資料の返還を求めることができる。

(貸出手続)

第5条 芸術資料の貸出を受けようとする者(以下「借用者」という。)は、別記第1号様式による申請書を機構長に提出しなければならない。

2 機構長は、適当と判断した場合は、借用者に別記第2号様式による承認書を交付する。

3 借用者は、別記第3号様式による預かり証を提出し、これと引換えに芸術資料を受領する。

4 機構長は、芸術資料が返還された時は、これと引換えに預かり証を借用者へ返還する。

5 資料画像等の利用に関しては別記第4号様式による申請書を機構長に提出し、第5号様式による許可書を交付する。

(貸出条件)

第6条 借用者は、次の各号を守らなければな

らない。

- (1)使用目的以外での使用をしないこと。
- (2)「慶應義塾ミュージアム・コモンズ所蔵」あるいは指示されたクレジットを明記すること。
KeMCo以外の者が所蔵する芸術資料については当該者所蔵の旨を明記すること。
- (3)芸術資料の荷造り輸送に要する一切の経費は、借用者の負担とする。
- (4)貸出期間中の芸術資料の保管は、借用者の責任とする。借用者は、その芸術資料に対して損害保険を付し、亡失、汚損、き損等のあったときは、賠償の責を負うこと。
- (5)貸出を受けた芸術資料の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に機構長の承認を受けなければならない。
- (6)その他KeMCoの指示に従うこと。

(撮影模写等の承認)

第7条 機構長は、第6条(5)号に規定する申し出があった場合、作者等の同意のない芸術資料については承認をしない。

附 則

この要綱は、2021年1月1日から施行する。

年 月 日

慶應義塾ミュージアム・コモنز芸術資料借用申請書

慶應義塾ミュージアム・コモنز機構長 殿

申請者 借用機関住所

借用機関名

代表者名

印

下記のとおり芸術資料の借用を申請します。

借目的	展覧会名：									
陳列のための施設及び設備概要										
借用期間	年 月 日 ～ 年 月 日									
展示期間	年 月 日 ～ 年 月 日									
芸術資料	作家名、資料名									
輸送方法	計 点									
借用中の管理方法										
担当者	名前： 所属： 連絡先：									
特記事項										

芸術資料貸出承認書

様

慶應義塾ミュージアム・コモنز機構長

下記のとおり芸術資料の貸出を承認します。

記

1. 使用目的

2. 貸出期間 年 月 日から 年 月 日まで

3. 内訳

種別	作者名	資料名	摘要

付記

- (1) 使用目的以外での使用をしないこと。
- (2) 「慶應義塾ミュージアム・コモنز所蔵」あるいは指示されたクレジットを明記すること。
- (3) KeMCo 以外の者が所蔵する芸術資料等については当該所蔵の旨を明記すること。
- (3) 芸術資料の荷送り輸送に要する一切の経費は、借出者の負担とする。
- (4) 貸出期間中の芸術資料の保管は、借出者の責任とする。借出者は、その芸術資料に対して損害保険を付し、亡失、汚損、き損等のあったときは、賠償の責を負うこと。
- (5) 貸出を受けた芸術資料の撮影、複写、印刷物掲載等については、事前に機構長の承認を受けなければならない。
- (6) 借用時に本書を提示すること。
- (7) その他慶應義塾ミュージアム・コモنزの指示に従うこと。

第 3 号様式

年 月 日

芸術資料預かり証

慶應義塾ミュージアム・コモモンズ機構長 殿

申請者 借用機関住所

借用機関名

代表者名

印

ご所蔵の下記芸術資料を借用了しました。

借用目的	展覧会名：									
展示場所										
借用期間	年	月	日	～	年	月	日			
展示期間	年	月	日	～	年	月	日			
芸術資料	作家名、資料名									
担当者	名前：					計	点			
	所属：									
特記事項	連絡先：									

第 4 号様式

資料画像等利用許可申請書

年 月 日

慶應義塾ミュージアム・コモモンズ機構長 殿

申請者 住所

氏名

印

電話番号（ ） ー

資料画像等の利用の許可を受けたいので、次のとおり申請します。

目的										
利用区分	<input type="checkbox"/> 掲載・掲出 <input type="checkbox"/> 放映 <input type="checkbox"/> その他（ ）									
成果物	名称			形態						
	発行部数									
	発行(公表)日									
	料金・価格	<input type="checkbox"/> 無料 <input type="checkbox"/> 有料（ 円）								
	備考									
利用期間	年	月	日	～	年	月	日			
利用希望資料										
番号	資料名				点数		備考			
備考										

慶應義塾ミュージアム・コモモンズ 資料画像等貸出・使用条件

- 1) フィルム・プリント・ディスク等の貸出媒体は、万全の注意をもって取り扱い、使用後すみやかにご返却ください。
 - 2) 貸出された資料は、慶應義塾ミュージアム・コモモンズ（以下 KeMCo）に事前に申請し許可を得た目的に限り使用を許可します。KeMCo の承諾なく第三者への売却・賃貸、また掲載予定成果物以外への使用は、お断りいたします。
 - 3) 著作権が存在する資料の掲載にあたっては、この申込書とは別に著作権者の承認をとり、必要なクレジットを記載してください。
備考：
 - 4) デュエープを作成する場合には事前に KeMCo の許可を得て、使用後はオリジナルとともにご返却ください。
 - 5) 複製物が発行されましたら、KeMCo までご送付くださいようお願いいたします。
 - 6) その他、 場合に依じて条件を付することがあります。
 - 7) デジタル公開する場合は URL を備考欄に記入してください。
- 上記の条件を承諾の上、資料借用を申し込みます。

資料画像等利用許可書

年 月 日

様

慶應義塾ミュージアム・commons機構長

下記のとおり、資料画像等の利用を許可します。

目的								
利用期間		年	月	日	～	年	月	日
利用資料								
番号	資料名	点数			備考			
備考								

慶應義塾ミュージアム・commons 資料画像等貸出・使用条件

- 1) フィルム・プリント・ディスク等の貸出媒体は、万全の注意をもって取り扱い、使用後すみやかにご返却ください。
- 2) 貸出された資料は、慶應義塾ミュージアム・commons（以下 KeMCo）に事前に申請し許可を得た目的に限り使用を許可します。KeMCo の承諾なく第三者への売却・賃貸、また掲載予定成果物以外への使用は、お断りいたします。
- 3) 著作権が存在する資料の掲載にあたっては、この申込書とは別に著作権者の承認をとり、必要なクレジットを記載してください。

備考：

- 4) デュープを作成する場合には事前に KeMCo の許可を得て、使用後はオリジナルとともにご返却ください。
 - 5) 成果物が発行されたら、KeMCo までご送付くださいますようお願いいたします。
 - 6) その他、場合に応じて条件を付することがあります。
- 上記の条件を承諾の上、資料借用を申し込みます。

**慶應義塾ミュージアム・コモンズ年報
1号 2020/2021**

発行日

2021年4月19日

デザイン

尾中俊介 (Calamari Inc.)

編集

慶應義塾ミュージアム・コモンズ

(久保山彩華、小西麻貴子、小松百華、長谷川紫穂、本間友)

発行

慶應義塾ミュージアム・コモンズ

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

Tel: 03-5427-2021

Fax: 03-5427-2022

Email: hello@kemco.keio.ac.jp

<https://kemco.keio.ac.jp/>

**Annual Report No.1 2020/2021
Keio Museum Commons**

Published on

April 19, 2021

Designed by

Shunsuke Onaka (Calamari Inc.)

Edited by

Keio Museum Commons

(Saika Kuboyama, Makiko Konishi, Momoka Komatsu, Shiho Hasegawa, Yu Homma)

Published by

Keio Museum Commons (KeMCo)

2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo, 108-8345

Tel: 03-5427-2021

Fax: 03-5427-2022

Email: hello@kemco.keio.ac.jp

<https://kemco.keio.ac.jp/>



Keio Museum Commons
慶應義塾ミュージアム・コモンズ